予算決算委員会総務政策分科会会議録

招　　集

令和元年９月１７日（火）　午前１０時　議会委員会室

出席委員（９名）

（分科会長）門　脇　一　男　　（副分科会長）国　頭　　靖

石　橋　佳　枝　　今　城　雅　子　　岩　﨑　康　朗　　岡　田　啓　介

尾　沢　三　夫　　中　田　利　幸　　西　川　章　三

欠席委員（０名）

説明のため出席した者

伊澤副市長

【総務部】辻部長

永瀬防災安全監

［秘書広報課］土井課長　頼田シティプロモーション推進室長

［総務管財課］瀬尻課長　祖田財産管理担当課長補佐

［防災安全課］三木課長　田中地域安全担当課長補佐

［調　査　課］塚田課長　東森行財政調査担当課長補佐

［職　員　課］松田課長　矢野課長補佐兼人事担当課長補佐　橋本研修厚生担当課長補佐

［財　政　課］下関課長　足立課長補佐兼総括主計員　小梅川係長

［契約検査課］石田課長

【総合政策部】八幡部長

黒見人権政策監兼人権政策課長

［総合政策課］長谷川課長　倉本まちづくり戦略室長

［都市創造課］若林課長　足立都市政策担当課長補佐

［交通政策課］石上次長兼交通政策課長　山根担当課長補佐

［情報政策課］堀口課長

［地域振興課］奥田次長兼地域振興課長　井上自治振興担当課長補佐

［男女共同参画推進課］河田課長　能登係長

【淀江振興本部】高橋本部長兼淀江支所長

［淀江振興課］橋井次長兼淀江振興課長

［地域生活課］宮松課長

出席した事務局職員

先灘局長　長谷川次長　佐藤議事調査担当主任

傍 聴 者

安達議員　伊藤議員　稲田議員　遠藤議員　岡村議員　奥岩議員　土光議員

戸田議員　又野議員　三鴨議員　渡辺議員

報道関係者１人

審査事件

議案第７９号　平成３０年度米子市一般会計等の決算認定についてのうち当分科会所管部分

～～

午前１０時００分　開会

○門脇分科会長　ただいまより予算決算委員会総務政策分科会を開会いたします。

本日は、１１日の本会議で予算決算委員会に付託された決算関係議案、議案第７９号、平成３０年度米子市一般会計等の決算認定についてのうち、当分科会所管部分を審査いたします。

審査は、総合政策部、総務部の順で、発言通告一覧表に沿って行います。

この際､委員の皆様に申し上げます｡審査終了後に指摘事項の取りまとめを行いますが、指摘事項に上げる項目は実際に発言された指摘事項しか上げることができませんので、指摘をされる際には質問や要望で終わることなく、その旨をはっきりと伝えていただきますようお願いいたします。

それでは初めに、総合政策部所管部分を議題といたします。

八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長　冒頭、大変申しわけございませんけども、決算に係る主要な施策の説明書のうち、数字の訂正がございますので、ひとつよろしくお願いしたいと思います。

まず、２４ページでございますけども、よろしいでしょうか、２４ページ目、事業名は生活路線運行対策事業でございます。その数字の訂正の部分といたしましては、左側の財源内訳がございます。まず、そこの訂正をお願いしたいと思います。上の国県支出金が１０８００となっておりますが、これを１０８２２に訂正をお願いいたします。そして、その下、一般財源でございますが、これが１１８６４１と書いてありますものを、１１８６１９に訂正をお願いしたいと思います。１１８６１９でございます。

もう一つございまして、その下でございます。循環バス運行事業、だんだんバスの運行事業でございますが､これも先ほどと同じく財源内訳のところの訂正をお願いいたします。まず、その他のところで１５０と書いてございますものを、３７５、１５０を３７５に訂正を願います。続きまして、一般財源の１４４０８と書いてございますものを、１４１８３でお願いいたします。１４４０８を１４１８３に訂正をお願いいたします。大変申しわけございません、以上でございます。

○門脇分科会長　委員の皆さん、よろしいでしょうか。

〔「はい」と声あり〕

○門脇分科会長　それでは改めまして、総合政策部所管部分を議題といたします。

発言通告一覧表、１ページをごらんください。決算に係る主要な施策の説明書の１ページ、事業番号５５番、ページ数は２８ページです。移住定住推進事業について質問を行います。

まずは、政英会、岩﨑委員。

○岩﨑委員　事業番号５５番、移住定住推進事業について、あわせて皆さん、決算審査指摘事項２９年度の処理状況１番、これが移住定住の促進についてというテーマで、昨年度の指摘についての処理状況、回答ということも書いてございます。あわせて見ていただきながら、質問をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは最初に、実績なんですけど、３０年度の事業の成果として、相談件数が２８５件、そして３０年度、県外からの移住者数４５７人となっております。これのその内訳、どういう経路から入ってきてこういう実績につながっているのかということについてお尋ねをしたいと思います。よろしくお願いします。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　まず、相談件数２８５件のうち、移住につながった件数ということでございますけれども、平成３０年度中に移住されました世帯が６８世帯の１５５人でございます。補足ですけれども、３０年度に相談されましたが、今年度に入ってから移住された方も実際ございます。先月末時点で、さらに６世帯、１５人の方が移住しておられます。それから、県外から移住されました４５７人の方の内訳ということでございますけれども、相談窓口経由は、先ほど申しましたとおり、６８世帯の１５５人の方が相談窓口経由でございます。それから内訳ということでございまして、年齢構成ですけれども、まず、年代が判明されておられる方でいいますと、５０代以上の方が１３％でございます。それに対しまして、２０代から４０代、いわゆる働き盛りですとか、子育て世帯の方が６９％となります。それから１０代未満の方が１８％、恐らく先ほどの子育て世帯のお子さんということになろうかと思います。そういうことで、８割、９割の方が２０代から４０代の子育て世帯の方が年代別としては移住してきておられるという現状でございます。それからＵターン、Ｉターンについてでございますけれども、Ｕターンの判明している割合でございますけども、Ｕターンの方がおよそ３８％でございます。それからＵターン以外の方が６２％でございまして、全県でも統計をとっておりまして、全県ですと大体Ｕターンが半々です、半分がＵターンということでございますけれども、米子市の場合は、大体過去何年か見ますと３割から４割ぐらいの方がＵターンということで、Ｕターン率が低いということは、Ｕターンではなくて、米子に新たに移住してこられるという方の割合が全県に比べ若干多いですというような状況となっておるところでございます。内訳については以上でございます。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　では引き続き、２９年度の決算指摘事項の処理状況について。処理状況はここに書いてございます、上２段目でございますが、平成３０年度からサイトをリニューアルして、新着情報コーナーの新設や、県西部の各自治体が直接サイトの情報を更新できるようにするなど、機能強化を行ったというような形でございます。先ほど３０年度の実績を答弁していただきましたが、２９年度からの指摘状況に関する処理状況とあわせて今年度の実績について、これがしっかりと事業成果が出ている、その辺の判定というか、見解はどのように考えておられますでしょうか。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　移住定住に関する取り組みの成果ということでございますけれども、移住定住につながった方、相談件数ともに、２９年度、３０年度、若干の変動はございますけれども、順調に推移してきているということでございまして、引き続き西部との連携もございますけれども、米子市としても相談窓口を通じて、取り組みを進めていきたいというぐあいに思っております。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　もう一つは、米子市と同規模の自治体、それぞれ全国的に地方創生進めておられるわけですけど、この移住定住施策の効果検証、本市は大体どういうところに位置してるんでしょうか。大体他市の状況と、その辺どういうふうに分析しておられますか。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　他市との状況でございますけれども、自治体それぞれ特徴があろうかと思いますので、一概に比較してどうこうということはなかなか言いづらいというふうには思っておりますけれども、移住相談の窓口の対応ですとか、アンケートの実施状況から見えてきていることでございますけれども、先ほど申し上げましたとおり、若い世代が多いと、子育て世代が特に多いということは特徴の一つかと思います。それと窓口の対応ですと、あとアンケートの中身を見てみますと、市の支援策として補助金等の支援を求められる方よりも、なぜ米子を選んだかという方の中には、病院、医療機関ですとか、当然、産婦人科、小児科等の充実度合い、それと特別医療、小児医療、特別医療ですとか、保育園、学校の数等々、そういった子育て環境が整っているというアンケートの回答をされる比率が非常に大きいということが見てとれます。そういったことで、米子市としてやっぱり暮らしやすい、生活していきやすいという面が、そういうことが選ばれるきっかけになっているんじゃなかろうかということで、米子市はそこに引き続き力を入れるべきというぐあいに考えておるところでございます。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　次は、去年までの指摘の中でも、いろいろ話は出てきたと思うんですが、同じ県内から米子市の近くの郡部のほうからの移住というのも、米子市に来ているというのは結構多かったというふうに聞いております。実は、結構その幅が非常に大きくて、本当に県外からきちんとこのルートを使って、ここへぜひ住んでみたいなと思われる方が、思ったよりも少なかったっていうようなこともちょっと耳にもしておりましたけども、そこら辺の、３０年度の動きっていうのは、どう分析しておられますか。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　転入転出の細かい内訳ということでございますけれども、県内からの転入転出の合計ですけれども、差し引きで、平成３０年は１２名の方が転入超過となっております。その内訳ですけれども、県内から米子市にいらっしゃった方が４０２人、対しまして、米子市から県外に出られた方、これがマイナス３９０人です。ですので、県内から米子市に来られる方が多いんですけれども、西部市町村が多いんですけれども、県外に出ていかれる方が多いと、いわゆる人口のダム機能というとこで、米子市は働いておりますけれども、なかなか県外に出られる方も多くいらっしゃるということで、何とか均衡を保っていこうという状況でございます。その県外に３９０人転出という中でも、先ほど申し上げましたとおり４５０人の方が県外から移住してきておられるという状況ございますので、そういった意味で、米子市としては何とか踏ん張っている状況であるというぐあいに、今のところ分析しているところでございます。以上です。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　要は、県外から米子市に住んでみたいと純然な思いで来られる方が、本当にどの程度あったのかなと思うと、ちょっと疑問であります。今の説明で、どうしてもやっぱりダム機能が働いてて、県内からの流出は何とか食いとめているところもあるんだとい

う説明なんですけども、本当にそれでいいですかという話を思っておりまして、そこら辺をちょっと全体的に考えて、この米子市で次なる展開、施策は、どのように考えるべきかということを、ちょっとお尋ねしたいと思いますが、よろしくお願いしたいと思います。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　今後の展開ということでございますけれども、先ほど申し上げましたように、やはり人口のダム機能のということでの側面もあるということと、米子市は子育て環境ですとか医療環境が整って、暮らしやすいというのもあろうかと思います。その辺を生かして、鳥取県西部全体での連携した移住定住に関する取り組みも一つでございますし、米子市の特徴であります暮らしやすさということを引き続き伸ばしていくとともに、十分に外に向けてＰＲしていくと、広報していくということが重要でなかろうかというぐあいに考えております。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　それともう一つ、情報収集についてということなんです、今後の情報収集について。一定の成果はあるという御答弁でありましたけども、まだまだ足りないんじゃないのっていう思いもしております。今後の効果的な情報発信とか、そういった意味では、何かお考えがありましたらお願いしたいと思います。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　情報収集、情報発信ということでございますけれども、なかなか移住定住、すぐにつながらないけれども、その予備軍といいますか、裾野を広げるという意味合いで、今、関係人口の創出ということのほうにも取り組みを進めております。そういった中で、例えばふるさと納税をされた方で、メールアドレスですとか、二次利用を承諾された方というのは、大体五、六千人ぐらいおられます。こういった方に対する情報発信ですとか、あとネギ太のツイッターですと、大体２万人弱ぐらいの方がおられますし、そのほかのＬＩＮＥですとか、フェイスブック、ＳＮＳでさまざまに情報発信やっておりまして、そういったものを通じまして、シティプロモーションとともに、情報発信に努めていきたいというぐあいに考えております。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　委員長、これが最後です。指摘といたしましては、これまでいろいろ答弁いただきましたけども、もちろん一定の成果を感じているという御答弁もありました。それは理解できます。ただ、まず一つは、圏域全体でやはり今後は考えていかなきゃいけないんだろうなと。あくまでも米子市は、そこのリーダーシップをとっていかなきゃいけない。やはり人口流出が、本当に歯どめがかかってないということも認められると思います。まずそれが一点。まずリーダーシップをしっかりとって、圏域全体で人口流出を押さえ、さらには移住定住をさらに進めていく、全体の施策をやっぱり考えていかなきゃいけないだろうというのがまず一点。それと、米子市単体でも、まだまだ情報発信不足は否めないんじゃないかということを指摘しておきたいと思います。しっかりと効果的な情報発信に努めていただいて、この移住定住をさらに進めていただきたいというふうに要望、指摘をいたしまして終わりたいと思います。以上です。

○門脇分科会長　それでは続きまして、同じく移住定住推進事業について。

今城委員。

○今城委員　この事業の中で、特にお試し住宅について伺いたいと思います。お試し住宅３棟の延べ件数と累数ありましたら、３棟のそれぞれの利用実績について伺いたいと思います。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　お試し住宅３棟のそれぞれの利用の内訳ということでございますけれども、まず、淀江が３世帯、１２４日間の利用です。それから大篠津が５世帯、７０日間の利用でございます。それから駅前が７世帯、１３７日間の利用でございます。合計で、延べ１５世帯ということでございますけれども、１つの世帯が大篠津と駅前の２回利用されておられますので、実世帯でいいますと１４世帯の利用でございました。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　そうしますと、もしそれぞれがわかればですが、お試し住宅利用者の移住実績については、教えていただけますか。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　それぞれの実績ということでございますけれども、淀江住宅を利用された方で移住された方が１世帯、２名でございます。それから大篠津住宅を利用された方で移住された方が２世帯、５人の方でございます。それから駅前住宅を利用された方で移住されたのが４世帯、８名の方でございます。ですので、１４世帯利用されて、７世帯が移住につながったということでございます。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　そうしますと、お試し住宅３棟、お試しですのでこういう実績だっていうことは重々承知しましたが、借り上げ年限があったんじゃないかなっていうふうに思ってたんですけど、それはありますか。それと、借り上げ年限がいつまでなのかっていうことと、その後、このお試し住宅、どういうふうに利用していくおつもりなのかを、ちょっと伺っておきたいと思うんですが。

○門脇分科会長　八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長　借り上げ年限については、一応その建物が古くなったらというようなことだったと思いますが、はっきりと今の時点では、期間まではちょっと存じておりません。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　そうしましたら、それは通告してなかったですからよろしいんですが、それぞれの３棟の利用の世帯とかを考えますと、もう少しあってもいいのかなっていうような気持ちにもなりますし、せっかくいい移住にもつながっていくっていうことでもあるのにもかかわらず、この程度の利用なのかなっていう気持ちにもなるところです。例えば、それぞれ淀江、大篠津、それから中央という形で、性格性を持たせながら、例えば大篠津だったら農業とか自宅近辺でできるとかっていうようなことを見越してっていうことも言われてた、そういうことを見越してそこを使うっていう形だったと思うんですけど、じゃあ例えばそういうものを見越して移住するっていうときに、そういう物件が実際に、本当に用意してあるっていう、例えばこれは空き家バンク等もそうなんですけども、あるのかっていうと、そこら辺のところがどうなのか、連動性とかっていうことも、今後本当にしっかりと受けとめる皿としてやっていかないといけないかなっていうような気持ちにもなり

ますので、しっかりとした、もう少しの広報と、それから受けとめる皿を、もうしっかりとありますよっていうことを出した上で、お試ししていただくというような形も、もう少ししていってはどうかなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

○門脇分科会長　それでは次に、３０ページ、事業番号６０番、「米子がい～な！」総合戦略推進事業。

よなご・未来、国頭委員。

○国頭委員　うちの会派、発言要旨のところ、ちょっと書いておりませんで、お断りしておきます。済みませんでした。

今後についてのことなんですけども、この米子がいいなっていう総合戦略のこのネーミング、米子市の地方創生の有識者会議のメンバーの方が考えてやられたということですけども、当時、住みやすさ日本一ということで、こんなステッカーつくられて、尾沢議長の議長車もつけられてたと思うんですが、今も公用車にみんなついてますけども、このネーミングは非常に私はシティプロモーションといいますか、内向きの、市民に向けての暮らしやすさ日本一だったっていうことの、非常にＰＲになったと思っています。このステッカー等をつくられたと思いますけども、これはいつまで、今後私なんかはうまく使っていけるところは使っていかれたらいいと思ってますけども、これについて、今後どうしていかれるのか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　まず、ステッカーでございますけれども、米子がいいな、下に暮らしやすさ日本一と入っております。米子がいいなということプラス暮らしやすさ日本一を折り込んだものということでございまして、これつくった当時、経産省のほうで、暮らしやすさ日本一ということであったものでつくったものでございますけれども、これは、今の総合戦略のほうのをあわせてつくったものでございまして、今、総合戦略自体を改定作業中でございます。改定作業中であるということと、それとその後に、米子の魅力や取り組みを伝えるキャッチフレーズということで、「水　まち　自然　エンジョイ！よなご」というフレーズであったりですとか、「ずっと元気にエンジョイ！よなご」健康寿命の延伸等、さまざまなキャッチフレーズを使っております。そういったことでございますので、今後どのように使っていくかということにつきましては、使う上でのシチュエーションですとか、今後米子市の総合戦略、総合計画をつくる中で、どういったキャッチフレーズをつくっていくかと、いろんな要素があろうかと思いますので、その中でどういう使い方してくかと、今後どういうぐあいに扱っていくかっていうのは考えていきたいというぐあいに思っております。以上です。

○門脇分科会長　国頭委員。

○国頭委員　本当にシティプロモーションっていうのを、秘書広報課だけでなくて、総合政策課でもされてたりということで、連携してといいますか、別に秘書広報課だけがシティプロモーションすればいいという話ではないと思うので、企画のほうでも積極的にこういったキャッチコピーを使ってやっていただきたい、何か市民に向けてのプロモーションといいますか、していただきたいなと思っております。要望ということで。以上です。

○門脇分科会長　それでは次に、３１ページ、事業番号６１番、移住者向け住宅取得支援事業につきまして。

政英会、岩﨑委員。

○岩﨑委員　これも先ほどの、事業番号５５番、移住定住推進事業にも多少関連してまいりますので、５５番の移住定住推進事業から、こちらの６１番の住宅取得支援事業に、どんな関連性があるのかということを、まずちょっとお尋ねしたいと思います。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　この補助金でございますけれども、先ほどの移住定住相談事業の窓口対応ですとか、移住者が探される際に、米子市を選んでいただく、米子市に移住を決めていただくための大きな後押しとなるような、有効な支援策になるのではなかろうかということで取り組みを始めたところでございまして、相談があったりですとか、ホームページで示したりとかいたしまして、移住先を選ぶ際の参考にしてもらうということで事業を行ってきたところでございます。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　次に、決算額から見てということなんですけど、２９年度から３０年度にかけて、３０年度はより件数が高くなって、補助金額も高くなってると。要は、この事業は、やっぱり成果のあるものなのかなと、この数字的に見ればやっぱり思うわけなんですが、３０年度で打ち切りという方向性を出している。ここがちょっと、まだ一つ解せないというか、思っておりまして、それの理由について、その流れからどういう理由でっていうことでお尋ねをしたいと思います。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　廃止に至った考え方でございますけれども、これは昨年の議会でもこの補助金について、このあり方につきまして議論いただいたところでございますけれども、先ほどの移住定住相談窓口のところで若干説明いたしましたけれども、窓口での対応状況、それからアンケートを検証させていただきました。その中で、必ずしもこの補助金が促進策ということで、後押しになったかといいますと、なかなかそれは効果が限定的であったということで、既に米子市の特徴として、暮らしやすさといいますか、子育て環境が充実してる、医療機関が充実してるといったようなことをアンケートや相談窓口で大きな理由に上げられる方が非常に多いということがございます。一方で、この住宅取得の補助金が後押しになったかということについては、非常にといいますか、限定的であったという結果がございました。それを踏まえまして、やはり市が支出して、補助金をして、それを促進策になったかと、それが後押しになったかということでは、やっぱり限られた効果ということで、廃止するという結論に至ったわけでございます。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　もう一つ聞いてみたいんですが、財源内訳なんですけど、財源内訳の国県支出で、こちらの米子市のお金と半分半分ということでございます。国県支出については、３１年度以降も継続したものにあるのかどうなのか、ちょっとそれはどうなってますか。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　県の制度につきましては引き続きございます。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　ということは、米子市の単独の判断で、その補助金の制度、いろいろインセンティブの話も出ましたけども、ちょっとあんまり効果が薄いなと、したがってこの補助

金はカットしましょうっていう考えに至ったということなんですが、本当にそれでいいのかなと、いろいろ思うわけです。結局、じゃあ３１年度以降、この補助金がなくなりました、今年度ですか、令和元年度も、なくなった現状で比較して、ちょっと事業が完全にまた右肩下がりになってしまうんじゃないかななんてって不安もあるんですけども、それについての何かちょっと御見解いただきたいと思います。

○門脇分科会長　八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長　この移住者向け住宅取得支援事業でございますけども、まず、補助金の額ですよね。これがそこに書いてございますが、補助率が１０分の１、上限２５万円、子育て世帯については５０万円です。家を建てるときに、じゃあ幾らかかるのかということがあります。それで、まさに先ほど課長が言いましたけども、実際にこの事業を使われるほぼほぼ多くの方が、もう既に米子に移住を決めておられて、それで家を建てられると。そういう方が非常に多くあったということでございます。それともう一つ、確かに最初、移住定住を進める際に、まだこれはどんなものかわからない状況で、ある程度いろいろな事業があったんでしょうけど、これから移住定住進めますよというときに、じゃあ全国的にこの事業が進められるもんですから、まずこれやってみようということなんですが、これも先ほど課長が言いましたように、ある程度の年月、検証した結果、本当にこれでいいんだろうかと。それともう一つ、さらに突っ込んでいいますと、やはり移住定住っていうのは、今回は国のほうでも、やはりもともとは東京の一極集中を是正するための施策だったんですが、なかなか非常に難しいというのがわかったというのが、この５年間のある意味成果だったと思います。なかなかいろいろな施策は、全国どこでも打ってるんですよね。でも、それで本当にじゃあ移住者がどうかといえば、やはり最終的にはこの町の魅力というところに尽きるんであろうかなというのが、今の地方創生の総括で私どもが考えているとこでございます。ですから、そこら辺につきましては、先ほども言いましたように、先ほど御指摘もいただきましたように、やはり市の町としての魅力をこれからどんどん出していくっていうのが、やはりこれが地道な活動ではありますが、一番効果がある。市の魅力を発信するとともに、住んでる方も、やっぱりいい町だよねという施策を総合的に打っていくことが、この移住定住施策にも効果にもつながるんであろうかなというふうに考えておるとこでございます。以上です。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　確かに事業がもう既に終わってるというところに、どうこう疑義を申し上げるなんてっていうのも全くおかしい話だということは重々承知しております。ただ、例えば県の補助制度もまだ継続してやってます。他市の状況で、例えば近隣他市で、同じような自治体の中では、当然継続してるところもあるとは思っております。それがちょっと聞いたらすぐわかるかどうかわかりませんけど。わかりますか、ちょっと教えてください。

○門脇分科会長　長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　近隣の状況ということでございますけれども、まず、４市ですけど、鳥取市はやっておりません。それから倉吉市は実施中です。それから境港市は条件つきで実施しております。例の調整した団地の定期借地権を受けた件、ということで条件つきで。西部町村につきましても、やっぱり条件つきでやってるところもあれば、条件なしで広くやってるところもまちまちでございます。

先ほどの御質問への細かいとこの補足でございますけれども、アンケートですとか、定住窓口での相談の中で、やはり移住して来られてどこに住まわれるかといいましたら、賃貸がほとんどでございます。自分で住宅を建てる、分譲マンションを買われる方は十数％ぐらいにとどまります。ですので、やはり補助を始めた当初は、やっぱり定住していただきたいという思いがありますので、やっぱり居を構えていただくと、持ち家ということであれば長らく住んでいただけるということで補助を始めたという側面もあろうかと思いますけれども、なかなかそれはやっぱり少数で、一部の家庭でしかありませんので、そういった方向けの助成制度というよりは、やはりちょっと方向性を変えていかないといけないということあろうかと思います。この６月補正で新たに移住の補助金を予算化いただきました働き手に対する補助です。働く、就職されるということであれば、やはりある程度長らく住んでいただけるということで、そういったことで今度、働く方の移住を進めるというほうに、ちょっと軸足を移して取り組んでまいりたいというぐあいに思っております。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　これを最後にします。そうしますと、私のほうの指摘といたしますと、やはり本件もなんですが、５５番の移住定住推進事業もあわせて指摘をしたとおりでございます。ちょっとぱっと見ると、この事業の中止ということになると、おいおい、この事業に関して大変後ろ向きだなと捉えがちなんですね。もちろん一般市民の感情としてもそういうのもあるんじゃないかなと。もし、これがぱっと出たら、それちょっと後ろ向きなんじゃないのと。じゃなくて、米子市としてはこういう形でさらに広報に努めていって、これをふやしていきますという明確な何かやっぱり発信というのが、市民、市外にも、きちんと県外のほうにも、都会のほうにも伝わるように、ぜひとも強化をしていただいて、頑張っていただきたいということを指摘をしておきます。以上です。

○門脇分科会長　それでは次に、事業報告書の６９ページ、鳥取大学医学部との連携の強化について。

政英会、岡田委員。

○岡田委員　事業報告書の６９ページなんですけども、この鳥取大学医学部との連携強化ということで、トップミーティングの実施とかって書いてあるんですけれども、これ具体的に何が話し合われたとかいうようなものってあるんでしょうか、この平成３０年度において。

○門脇分科会長　ちょっと待ってください。委員の皆さん、６９ページ。よろしいでしょうか。それでは、答弁をお願いいたします。

長谷川総合政策課長。

○長谷川総合政策課長　鳥取大学との連携ということでございますけれども、米子市といたしましては、鳥取大学医学部附属病院は本市にとって大変重要な存在であるということで、伊木市長就任以降、特に力を入れて意思疎通や連携を図ってきたところございます。特に、トップ同士での話をする機会をつくっていこうということで、平成３０年度からトップミーティングを、学部長、病院長、それから市長、副市長で行うようにいたしまして、実施しているところでございまして、昨年度のトップミーティングですけれども、議題といたしましては、医学部のイメージ定着ですとか、地域包括ケアシステムの構築、ヘルスツーリズム推進ですとか、大学病院医学部と米子市の連携状況などなどにつきまして、意

見交換を行ったところでございます。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　この事務報告を見る限り、具体的な内容が何も書いてないもんで、先ほどおっしゃったように、鳥取大学医学部は米子市にとって重要だっていうのは、これは前の市長も同じようにおっしゃっておられて、意外と評判よくなかったですけども、そういうようなことはちょっと置いといて、じゃあ具体的にどうなんだということを、平成３０年度に、さっきおっしゃったトップミーティングをされた、具体的な案件がなくても、要は信頼構築のために顔を合わせて会談をしてるんだということと、あといろいろ言われるのは、教育の分野であるとか福祉の分野で鳥取大学医学部との連携をもっとしてほしいというようなことを聞くんですけども、これは平成３０年度のところで、そういう具体的な連携っていうのはあったのかどうかっていうのは、全くここに書いてないですけども、その回数と日にちだけが書いてあって、具体的にこういうことがありました、連携を強化したってこれ書いてあるわけですから、何をもってして連携の強化だというふうにうたわれたのかっていうのを、具体的に示していただきたいという話を、今してるんですけど。

○門脇分科会長　八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長　このトップミーティングにつきましては、その趣旨は先ほど課長が言ったとおりなんですが、実は前回のトップミーティングで、まず一番最初に確認させていただいたのが、既にさまざまな分野において鳥取大学の教授の方に、いろいろな会の、例えばメンバーになっていただいていたり、例えば福祉保健部門ですと、あるいろいろな事業のいわゆるエビデンスのところでお世話になっていたりとか、そういうことが結構あったんですけども、それがまだ一元的に把握ができてない状況であったんです。詳しいことについては、また後日、その連携状況というのを取りまとめておりますので、それについて必要があれば提出させていただきますけれども、まずそれをトップミーティングにおいて確認をさせていただくと。ですから、毎年毎年、既に医大の、高専さんも一緒なんですけども、さまざまな分野でいろいろと連携をさせていただいてるんですが、それを市として一元的に管理ができてない状況でした。鳥取大学医学部さんについても同じ状況でしたんで、それを確認させていただいたということです。それと、このトップミーティングで、結果として一番、去年これをやった成果といたしますと、先ほど言いました包括ケアの話がありまして、これについてはそれの問題提起があったりとか、ことしのがいな祭の日だったでしょうか、ふれあいの里で鳥大の病院長さん、あとは在宅ケア研究会の方、それと廣江さん、あとは厚生労働省の方、あとうちの市長が、地域包括ケアの要はシンポジウムを行うとか、そういう形で具体の事業としてはいろいろ出ておりますが、ただ、申し上げたいのは、一番大きい趣旨は、先ほど議員さんおっしゃられましたような、やはり信頼関係の醸成といいますか、ですからそこであえて市長、副市長にも出ていただいて、向こうも病院長、学部長さんに出ていただいた、それが趣旨でございます。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　信頼関係の構築と言われますけれども、ある面では信頼関係があるというのは当然のことだろうと思います、米子の市長と鳥取大学のトップの方、お互いに公の仕事をしておられて、そこに信頼関係がないということのほうが、どちらかといえば不自然かなというふうに思いますんで、これはやっぱり信頼関係があるということが、僕は大前提

だろうと思いますし、そのために連携強化ということで、いろんなところで話し合いをされたりとか、各担当課でも話もされたということなんですけれども、ぜひともここに、やはり先ほどおっしゃったようなことを、地域包括ケアでやりましたというふうにおっしゃってたんですけども、やっぱり具体的に何をやったのかということを書いていただいて、連携の強化ってうたっている以上は、何をもってしてこの連携を強化したんだということになりますんで、ぜひとも具体的に書いていただいて、平成３０年度にやったこと、それを捉まえて、次年度以降、どういうことに挑戦をしていきたいんだっていうことを、ぜひとも書いていただくように、これ書いてないんで言いようがないんですけども、来年度以降ちょっと書いていただくように。それでないと事務報告ということにならないと思いますので、ぜひともその辺は指摘をしておきたいと思います。以上です。

○門脇分科会長　それでは、先ほどありました連携強化の内容について、また後ほど配付をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは次に、２９ページ、事業番号５７番、中心市街地等活性化推進事業について。

石橋委員。

○石橋委員　この事業は、数字を見ます限りでは、決算額が毎年減少しているようですけれども、その理由は何なのか。そして３０年度の予算額と決算額との差がかなりありますけど、それはどういうわけか、まずお尋ねします。

○門脇分科会長　若林都市創造課長。

○若林都市創造課長　中心市街地等活性化推進事業についてでございますが、この事業費の主な内容は、市の事務費と中心市街地活性化協議会への負担金でございます。減少しているのは、主として負担金のほうでございます。協議会の負担金の金額についてでございますが、これはその年度の活動内容に連動するものでございまして、特に平成２８年度は、２７年度の終わりのほうで計画の認定がございましたので、かなり動きが大きくて、それから２９年度にかけて減少しているということでございます。３０年度の決算額がちょっと予算額より落ちてるという部分に関しましては、これは継続事業で中心市街地活性化協議会のほうが行っていますまちなかディベロッパー事業の委託先の方が、ちょっと体調が不良になりまして、代替の委託先が速やかに見つからなかったことから、委託期間が減少したために、実績ベースでこのような金額の減額ということになりました。以上でございます。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　その使われてない商店の持ち主と、新しく出店を希望する事業主のマッチングというのは、とても重要だと思うんです。それで、まちなかディベロッパーということを委託されてる人の働きっていうのはとても重要だと思うんですけど、今１人の人がそれに働いているわけですよね。

○門脇分科会長　若林都市創造課長。

○若林都市創造課長　現状のところは１人の方にお願いしております。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　これ、市の職員ではない方に委託をしてるわけなんでしょうけども、商店街の復興に何でかかわろうと、そこで働こうとされているのか、すごい思いを持っとられるわけでしょうか。

○門脇分科会長　若林都市創造課長。

○若林都市創造課長　現在、委託でお願いをした方についてでございますが、建築関係のそういう空き家対策に取り組んでおられた方でございます。さらには、米子市の中心市街地整備推進機構でございますＮＰＯ法人のまちなかこもんずのメンバーでもございます。その方が中心市街地に思いがございまして、従来から中心市街地活性化の事業にかかわっていただいておりまして､空き家の掘り起こしということもやっていただいておりました。それを中心市街地活性化協議会の中で、空き家調査から、次にはマッチングの団体にいこうということで、その方に委託をお願いしたという状況でございます。以上です。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　わかりました。それで、やっぱりこの事業は米子をどんな町にしていきたいのか、そのためには商店街をどういうふうに活性化していくかという、すごい大きな問題があると思うんですが、米子市として、じゃあどういうふうに目指しているのかみたいなことで、具体的なところがちょっとやっぱり見えにくいなというふうに思っています。先ほどの移住定住の話もありましたけど、それも大事な問題ですけれど、やっぱり米子の町の核をどうつくっていくのか、米子が本当に住みやすい町、いい町っていうふうになるためには、商店の復興とか、それに絡めて公共交通の問題とか、若い世代の移住者にとっては、車で動けるっていうことであれば、そんなに問題ないのかもしれませんけど、やっぱり商店街周辺の振興というのがとても大切だというふうに思います。今、商店を回っていろいろ伺って話を聞いたりしますと、あそこら辺に住んでる人も、買い物に困ったりしてるんですよね。だから周辺部だけじゃなくて、真ん中も空洞化しとって、なかなか大変な町だなと。それでも米子は住みやすいという評価ももらってるわけですけど、これから長く、やっぱり米子がいい町であり続けていくためには、やっぱりそこはとても大事だと思うんで、もっと力をこの対策には入れるべきだというふうに、これは指摘をしておきたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、次に、２４ページ、事業番号４７番、生活路線運行対策事業について。

政英会、岡田委員。

○岡田委員　平成３０年度なんですけども、毎年同じような決算内容の事業概要と事業の成果と今後の課題・方向性というの、平成２９年度も同じような内容じゃなかったかなというふうに思うんですけども、平成３０年度、特にこれまでこの事業、何年もやってこられて、特筆すべきところっていうのは特にないんですか。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　この事業は、路線バスの維持のために、生活路線について赤字を補填して維持するものでございますが、内容的にはほぼ毎年変わりはありませんけども、３０年度につきましては、以前に住民アンケート等で聞き取り調査をもとに、新規路線を鳥取県西部で地域公共交通の形成計画を策定しました中でありました循環線、日吉津のイオンと労災病院と国立医療センター、伯耆大山駅を結び、右回り、左回りの、各路線のものを、昨年３０年の１０月から運行しております。また、法勝寺線につきまして幾つか、上長田、東長田、奥まで行く路線があったんですが、それを整理しまして、ほぼ全てを法勝寺で打ち切りで、あと残りのところは南部町の町営バスのほうで肩がわり

ということで、要は路線の本数を維持して、密度を上げて、赤字を減らそうということで、路線の再編がなっております。このあたりが３０年度の特筆するところです。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　平成３０年の１０月からということですんで、効果がまだ出し切れてないのかなと思うんですけども、結果的には決算額からすると、赤字額は前年度に比べてちょっとふえたということぐらいだったわけでしょうか。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　先ほど言いましたように、１０月から始まっておりますので、バスの決算は１０月から次年度の９月ということで、まだ効果が反映しておりません。３０年度の場合には、そのままの２９年度とほぼ同じ路線で計算しておりますので、若干コストが上がったことによる補助金額の増加程度で推移しております。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　そうすると、その解決策の成果については、この令和元年度のほうで出てくるんだろうと思うんですけれども、伊木市長のほうも、この赤字を補填していくというやり方についても、もう少し創意工夫ができないだろうかというような発言もしておられましたし、当然ですけど住民の生活にはなくてはならないものですので、当然ですけど運行していただくのに赤字をある程度補填していくということは十分理解ができるんですけれども、やはりこの金額を善と出していくということではなくて、先ほどおっしゃった改善策の成果がまだ出てこないということですので、それを見たいとは思うんですけれども。先ほどおっしゃった路線の変更というのは、アンケートや何かに基づいてされたということ、毎年やってることなんですかね、アンケートとかっていうのは。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　鳥取県西部の地域公共交通網形成計画というものを、平成２８年３月に県と西部の市町村で策定いたしました。その中で、平成２７年の７月に１万１，６５１部、各西部市町村についてアンケートを実施した上で、利用者アンケートと、あと高校生への聞き取り調査、民生委員への聞き取り調査をもとに、目的地、どういうところを回りたいかというところをもとに、今の路線に足りないところを補完することで、幾つか上げられまして、その中で一番要望の多かった循環線が新規で入りましたし、法勝寺線の再編とかもされたところです。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　そうしましたら、当然ですけどこれは継続していかないといけない事業でもありますし、できれば赤字額は減っていってほしいなと思う事業でもございますんで、引き続きの御努力をお願いするしかないなというところです。

○門脇分科会長　それでは、同じく生活路線運行対策事業について。

今城委員。

○今城委員　ほぼ同じようなことで申しわけないんですが、まず、使い勝手のよい、利用しやすい路線となっているのかどうなのかということについての本市の認識、要するに住民ニーズと合っているかっていうことについての認識を伺いたいと思います。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　現在残っております路線といいますのは、最盛期

の昭和３０年と比べますと、数分の１になった乗客の中で、バス事業者等が工夫を凝らしまして路線を維持してきたものでございますので、現在走ってます路線は、住民ニーズにある程度といいますか、かなりの部分対応しているものと思っております。ただし、もちろん生活の目的地とか多様化しておりますので、その辺につきましては、先ほど言いましたように、昨年１０月からの循環線とかということで、新規路線につきましては随時見直しとか、要望とかはしております。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　議会でも何回かこういう形で質問なりいろいろあったと思うんですが、やはりニーズに対しての、どうしても全てを網羅することはもちろんできないのは重々わかっているんですが、縦路線ではなく横路線も一緒にしてはどうかとか、いろんな意見が出てきますが、結果的に事業者さんとの折り合いがつかないんだっていうことは重々わかっておるところです。誰かがどうこうということではなくって、やっぱり利用を促進するっていうことによって、この赤字額が、補填額が少なくなっていくっていう、これはもう間違いないことですので、今後のバス利用促進への取り組みは、公共交通ビジョンとの関連もあるとは思うんですけれども、その取り組みについてのことを伺っておきたいと思います。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　先ほどもありましたように、新規路線につきましてはバス事業者との調整等もありまして、なかなか簡単にはいきませんけれども、今年度以降につきましても、随時、バス事業者とは定期的に会合などを設けまして、忌憚のない意見を交換して、よりよいバス路線、運賃体系等を考えておりますので、それにつきましては次年度以降の施策について反映させたいと思います。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　最後にします。先ほどおっしゃってくださったみたいに、１０月からバス路線等変わるっていうことで、循環線であったりとか、法勝寺線の再編などの結果が出てくるのは、多分今年度以降になると思いますので、ここら辺のところはちょっと注視していきたいと思ってるところなんですけれども、やっぱりもう一歩先ぐらいのところの、市内での使い勝手のよさっていうものが、もう一つどうにかならないのかなというのは、やっぱりいろんなところで聞く声ですので、やはりもう少しその辺の効果とか、じゃあどうするかっていうのは、これはとっても大変なことだと思うんですけれども、しっかりその辺のところは取り組みを、さらに進めてくださいということをお願いするしかないですので、よろしくお願いします。

○門脇分科会長　それでは、同じく生活路線運行対策事業について。

中田委員。

○中田委員　経年で決算額が徐々に上昇している、この部分の分析をお知らせいただきたいんですが。これはいわゆる経費、運転手不足とかいろんなことの状況がありますけれども、いわゆる経費なのか、それとも利用率の低下なのか、そこら辺についての分析をお聞きしたいと思います。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　平成３０年度の補助金額につきましては、２９年度より若干増加しております。増加原因につきましては、主に運行経費の一部であります

燃料代が、２９年度、３０年度は２割ほど上昇しておりまして、その部分が反映しまして運行経費が上がっております。ちなみに運賃収入につきましては、微増、２３０万円ほど前年に比べてふえております。要は、収入もふえておりますが、支出がそれ以上にふえたということで、赤字額がふえております。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　わかりました。そうすると、取り組みの中で、実際には米子市の場合は、バス路線は民間なんですけれども、微増をしてるけども、経費がふえたということですね。それで、この事業は、いわゆる生活路線の運行を確保していくための赤字補填の制度なので、どっちかっていうと積極的な利用促進策というような意味合いとは、ちょっとまた違うというか、何とか赤字路線なので守っていくために、市が補助を出してその穴埋めをしてるという事業ですよね。経費のところは、恐らく運転手不足にかかわる人件費等の経費っていうのは、これからそんなに、また下がるっていう傾向は余り考えられない。経費は上昇する可能性のほうが高いじゃないかと思ってまして、そうすると、この事業だけではなくて、利用促進策の事業の強化っていいますか、そういったことが今後必要ではないかって思うんですけれども。といいますのが、先ほどちょっと御紹介があった、鳥取県西部地域の公共交通網計画のアンケート調査の中身としては、例えば私も本会議の中でも言いましたけれども、本市のバス路線の人口カバー率はすごく高いですよね、８割近くであったりして。それで、それだけの人口カバー率が高い、これ都会よりもはるかに高い人口カバー率を持っていながら、利用率が低い。そうすると、これはマッチングといいますか、利用に対するマッチングの問題とか、利用しやすさっていう部分では、さまざまな利便性の問題は、例えばＩＣカードだとかいろんなことも含めて、利用しやすいものなのかという問題と、利用ニーズに路線の運行がマッチングしてるのかという問題があって、運転手不足っていうことになると、今後はどんどんどんどん路線をふやすなんてことは無理だと思いますので、そうすると、いかに赤字額を少なくしたり、市長も本会議で言ってましたけども、黒字路線を逆に構築していくっていうような、そういったことが将来に向けて必要だと思うんですけども、この事業だけでそこまで手が出せないんではないかというか、出す余裕がない、そういう事業ではないんではないかと思うんですけど、いかがですか。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　もちろんこの事業は生活路線の赤字補填の事業ですので、この事業だけでバス路線の維持とかを図るつもりはございません。３０年度におきましては、免許返納者に対する定期券の補助などをしまして、利用促進を図ったところで、３１年度以降もさまざまな手で利用促進を図って、路線網をすぐにふやすことは不可能ですので、いろいろほかの面から補強しながら利用促進を図っていきたいと思っております。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　誤解を恐れずに言いますけども、例えば松江市は、この利用促進のための補助事業っていうのをやめました。なぜかというと、７５歳以上になって免許証を返納する問題とバスの利用促進をする問題は、本質的に違うということで、それで、そこの７５歳以上の免許証返納促進策というのは、言ってみると違う政策課題なので、そこはやめて、それでバスの利用促進は利用促進で取り組んでいくっていうことを、松江市はし始めまし

たよね。私はやっぱり先ほど言いましたように、この事業はこの事業で運行路線を維持していくための赤字部分を市が補填していくということは、これは大事だと思ってますんで、これをしないと本当に民間事業者が維持させることは不可能だと思いますので、この事業の限界を踏まえて、その利用促進策に着手できるような事業を、やっぱり構築していく必要があるんではないかということを、強くこれは指摘しておきたいと思います。

○門脇分科会長　それでは次に、同じく生活路線運行対策事業について。

よなご・未来、国頭委員。

○国頭委員　国県支出金の近年の補助金の推移についてということで、お伺いいたします。

○門脇分科会長　答弁できますか。

石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　路線バスの国県支出金の推移につきましては、平成２８年度が９６９万９，０００円、平成２９年度が１，０８０万円、平成３０年度が１，０８２万２，０００円、先ほど提出しましたが、であります。県の支出金といいますのは、バスの補助金が３種類に分かれてまして、国庫補助路線、複数の市町村をまたいで一定の条件を満たしたもの、県の補助路線、複数の市町村をまたいで、国の補助に当たらないもの、あと米子市内で完結した路線になっておりますが、県の補助事業につきましては、米子市が補助したうちの半額を間接補助するという感じの補助金の体系になっておりますので、そのための補助額です。

○門脇分科会長　国頭委員。

○国頭委員　いわゆる県から出てる補助金は、米子市とほかの町村にまたいでいるバスに対する補助金だということだと思います。私もほかの自治体の公共交通の補助金とかを見ても、やはり国や県から補助がそんなに多く出ているところがないんですよね。結局、市内の公共交通をどうやるかについては、自前の、市独自の持ち出しといいますか、そういったものでしっかり政策はやっていくしかないなというふうに見ております。先ほどからありますように、伊木市長就任の当時、公共交通に力を入れるっていうことでありました。先ほどから聞いていました循環路線、米子駅から皆生温泉、それからイオンの、市内で唯一の黒字の１路線の、そこを伯耆大山等を経由しての変更ということでありましたけども、ここにしたということで、黒字のところをてこ入れをされたんですけども、結局赤字のところは、ここの路線を、聞くところによると、黒字の路線をてこ入れをされた分の運転手さんがふえた分だけほかの路線が減ったと、運行が減ったような話も聞いております。そういった、ほかのやはり弓浜だとか、南部、箕蚊屋だとか、そういったところのやはり米子市は持ち出しがふえるようなことは、今までの答弁も、避けたいというような答弁が多いんですけども、やはり先ほどからありましたけども、カバー率はいいわけでありますので、市民の便利をふやしていくのならば、しっかりとそのあたりの、今後のだんだんバスを民間さんと共同運行するなど、そういったことも事業者さんと相談してやるべきことだと思っておりますけど、そんな相談等はされておられるかどうかお聞きいたします。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　本年度から路線バス運行の２社とは、定期的に話し合いを持っておりまして、既存の各社のバス路線、だんだんバス、どんぐりコロコロ等含めまして、いろいろ話し合いはしております。ただ、まだすぐさま、もちろん運転手不

足という一番大きい問題がありますので、どっかをふやせばどっか減らさなきゃいけませんので、その辺のところがまだ見えておりませんけども、利用しやすいような路線、もしくは料金体系等につきましては、常にバス事業者と協力しながら考えております。

○門脇分科会長　国頭委員。

○国頭委員　最後にしますけど、これは数年来言ってることですので、事業者という相手先があることですので、なかなか米子市の思いはいろいろ出していただいて、時間はかかるかもしれませんが、引き続きこれは取り組んでいただきたいことですので、よろしくお願いいたします。

○門脇分科会長　それでは次に、２４ページ、事業番号４８番、循環バス（だんだんバス）運行事業について。

よなご・未来、国頭委員。

○国頭委員　だんだんバスの運行事業ということで、これは先ほども聞きましたけども、ちょっとだんだんバスをほかの路線等も含めたところ、逆回り等を何かちょっとふやすような、先ほど検討と言われましたけども、そういったことはずっと指摘といいますか、質問等で出ておりますけども、そういったことを改めて、今後のだんだんバスの方向性っていうか、ほかの路線等もあるのかどうかお聞きしたいと思います。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　だんだんバスにつきましては、先ほど言いましたように、バス事業者２社と検討していまして、内容につきましては御指摘のありますような、反時計回りや別ルート等について、何らかの実証実験までこぎつけないかということで検討しております。つきましては、ことし利用者ごとの情報、乗ったバス停とおりたバス停を調査します、ＯＤ調査というのを実施しまして、だんだんバスの実態を把握した上で、別ルート、反時計回り等々のどういうルートが考えられるかということを今、検討しているとこでございます。ただし、何回も言いますが、運転手不足の関係で、実は実証実験をバス会社に申し出ましたところ、今の路線を減らさないと、実証実験すらできないというようなことを、確かに運転手がいなきゃそうなんですけども、言われまして、ちょっとその辺のところで若干今ひっかかっておりますが、引き続き米子市の中心部の移動につきましては、だんだんバスがかなり担っておりますので、利便性向上についてできますように、業者と協議の上、図っていきたいと思っております。

○門脇分科会長　それでは次に、２６ページ、事業番号５１番、巡回バス（どんぐりコロコロ）運行委託事業について。

よなご・未来、国頭委員。

○国頭委員　近年の利用者減と決算がふえておりますけれども、それについてお伺いいたします。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　どんぐりコロコロの利用者の減でございますが、ここ３年間を見ますと、２８年度が７，９８４人、２９年度に９，１５０人、３０年度、７，５４１人とふえたり減ったりしております。どんぐりコロコロの主な利用者は、高齢者がかなりの割合を占めておりまして、高齢のために施設入所されて利用されなくなったり、新たに高齢者になられる方は、昨今の高齢者は免許保有率が高いために、バスに頼らずに

自家用車をそのまま利用される方も多いことなどもあって、傾向として徐々に利用が減っているものと考えています。また、決算額の増減につきましては、３０年度につきましては、利用者が減ったことによる収入源と、運行経費につきましては、路線バスでも言いましたように、軽油、ガソリン等、２割ほど小売値が上がっておりますので、その辺の運行経費の増等で赤字額が増加しております。

○門脇分科会長　国頭委員。

○国頭委員　２割ほど燃料費が上がっているということでありました。そういうことで、次の質問ですけども、次年度予算もそういうことで上がっているということでいいんでしょうか、お聞きいたします。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　主にそういう理由でございます、運行経費の増加でございます。あと、３１年度からは、昨年までは代替バスということで日本交通に委託して、収入は日本交通が収入として、差額の赤字だけをうちが委託料として払っておりましたが、日本交通が３０年度に撤退いたしまして、３１年度からは自家用有償という白ナンバーのバスで米子市が直接運行しております。その関係で、バスの運賃収入が米子市の直接収入ということになりました。ということで、運行経費が丸々歳出に上がるようになりましたので、見かけ上運行経費はかなりふえております。要は、収入分だけ委託料がふえたということになります。

○門脇分科会長　国頭委員。

○国頭委員　ということは、総枠としてはそんなに変わらないということでよろしいですよね。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　予算的には、運行経費は同額で見ております。

○門脇分科会長　それでは次に、事務報告書の７８ページ、米子市淀江町巡回バス（どんぐりコロコロ）運行について。

　政英会、岩﨑委員。

○岩﨑委員　事務報告７８ページと、先ほどの国頭委員のほうからもありました、この運行委託事業、これもあわせて質問していきたいと思います。決算額、それから乗車人員等々、先ほど御見解をいただいたわけでございます。これまでもこのどんぐりコロコロについては、例えば米子市合併１０周年踏まえて、それからいろんなアンケート調査なんかもやり、ルートの変更とか時間の変更とか、さまざまな手だてをやってこられたということも認識をしております。例えば、淀江の観光にもうちょっと資する運行にしたらどうかとか、それからＪＲの路線とあわせて路線なり時間なりを変更したらどうかとか、いろいろ議会側もこれまでも提言も繰り返してまいったわけでございます。ただ、昨今の事情によって、３１年度からは、いわゆる直接のマイクロバス程度のものを利用するという方針に至ったわけでございます。今回の私の質問の趣旨というのは、もちろん抜本的な見直しっていうのをもう一度、数年たってから再度考えるべきだという考えも変わってはおりませんけども、特に路線について、ルートについて、こういう言葉が上がっております。ちょっと一般質問ぽくて申しわけないんですけども、決算にあわせて指摘をさせてもらい、意見を言わせてもらおうと思います。本宮からイオンに向かうという路線があるはずです、淀江町

本宮から。これは、淀江町内で完結するという施策なわけですから、それはやむを得んかという一方の気持ちもあるんですけども、どうせ走らせるなら、例えば尾高とか巌地区を経由して、その市の南部の一部、その辺、市の南部の交通不便対策の一部として、検討する余地はないだろうかというようなふうに思っておりまして、この決算としてあわせてちょっと提言というか、御意見を言わせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○門脇分科会長　石上総合政策部次長。

○石上総合政策部次長兼交通政策課長　先ほど言いましたように、今年度からは米子市が白ナンバーのバスを自家用有償ということで運行しております。これは、免許としては特別な免許でございまして、交通空白地帯にのみ許されるものでございまして、路線バスが走っているところ等は原則として走れません。今、本宮から尾高を経てというルートにつきましては、日本交通さんが大山寺線、本宮線を運行しておりますので、これを運行するというふうに申し入れをして、例えば逆にやぶ蛇として、その路線をじゃあ廃止するからそっちでしてというふうに言われる可能性がございますので、かなりちょっとデリケートな扱いになっております。その辺ちょっと御理解いただきたいと思います。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　短時間で終わります。理解はしました。ただ、済みませんが一点だけ。さまざまなルートのことで、まだまだ改善の余地があるんじゃないですかということは、強く指摘しておきたいと思います。このままの今の直営で推移していくんでしょうけども、今言ったように、交通空白地区の全体の考えに、どんぐりコロコロをどうミックスさせていくのかっていうのは、依然私もずっと指摘の一つとして上げていきたいと思っておりますので、どうか引き続きの検討をよろしくお願いします。

○門脇分科会長　それでは次に、２５ページ、事業番号５０番、中国国際交流員配置事業について。

よなご・未来、国頭委員。

○国頭委員　これは事前に取り下げておりますので、いいです。

○門脇分科会長　それでは次に、４３ページ、事業番号８６番、まちづくり活動支援事業について。

石橋委員。

○石橋委員　これは、どのような活動が対象になっているのかということをお伺いしたいと思います。ちょっこし活動コースとかがいな活動コースで上限額も違いますし、どういうふうな振り分けになっているのか。件数、予算額の減少している理由は何なんでしょうかということをお伺いします。

○門脇分科会長　奥田総合政策部次長。

○奥田総合政策部次長兼地域振興課長　まちづくり活動支援事業につきまして、どのような活動が対象になっているのか、またその内容につきまして、さらには平成３０年度の件数、決算額の減っている理由につきましてという御質問でございますが、まずこの対象事業でございますけども、これは市民の方が構成員となりまして団体をつくっていただいて、環境美化や地域の文化交流、にぎわいのイベントなどの活動を自主的に継続的に行うまちづくり事業を対象としています。３つのコースを設定しておりまして、ちょっこし活動コース、これは初めて事業展開される団体になりまして、対象経費の全額１０分の１０で、

上限額が８万円となっています。２つ目が、がいな活動コース、これは何年か事業をされている団体が新たに新しい企画をされる場合、対象経費が３分の２で、上限額が３０万円としております。３つ目が、継続活動コースで、これは先ほど言いましたちょっこし活動コースまたはがいな活動コースで、以前既に交付された団体で３年を経過した方・団体、この活動を継続されている場合に対象経費の２分の１以内で１０万円を上限としております。この３つのコースを設定しております。また、昨年度の件数並びに決算額の減につきましてでございますけども、予算額は、ちょっこし活動コースの８万円を５件、がいな活動コースの３０万円を２件、継続活動コースの１０万円を３件で計上しておりましたが、募集を行いまして審査を行った結果、ちょっこし活動コースが１件、がいな活動コースが３件と少なかったこと、またがいな活動コースは昨年３件交付をしましたが、いずれも上限額の３０万円未満ということで、減額になっております。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　金額との関係というのはわかったんですけど、例えばどんなふうな活動内容なんですか。

○門脇分科会長　奥田総合政策部次長。

○奥田総合政策部次長兼地域振興課長　例えば、環境美化でございますけども、一例を挙げますが、地域の中で植栽を植えて花いっぱい活動、またはプランターを地域の道路に設置して、それを見守っていく活動をされています。また、福祉関係で、子育て関係の団体が子育てのサークル活動を展開していくということをされています。またさらには、文化・スポーツ関係では、文化・スポーツによって、そのイベントによるにぎわい創出ということで、これは短期間ですけれどもイベント展開をされています。そういうふうな事業展開でございます。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　がいな活動コースの分、ステップアップするということになると、もうちょっとそれに何かが加わって、その対象の費用がとか、何か加味されてステップアップするわけですよね。

○門脇分科会長　奥田総合政策部次長。

○奥田総合政策部次長兼地域振興課長　このがいな活動コースというのは、ステップアップというふうに言われましたけども、ある団体さんが、もう既に事業展開をされて何年か経過されてきた中で、新たに御自身で新規の企画をされて、その場合ということになりますね。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　予算額よりも少なかったということで予算額と決算額の差が出てたということなんですけど、ちょっとこの辺が残念ですね。

○門脇分科会長　それでは次に、７ページ、事業番号１４番、男女共同参画センター運営事業について。

今城委員。

○今城委員　登録団体の推移ということで、登録団体が減っておりますのは、以前からもいろんな形で指摘がありまして、趣旨に沿ったきちっとした形の登録団体になってるのかっていうことがあっての精査が行われているというふうに認識しておりますが、この団体

数については、とりあえず精査した数の団体の数なのかっていうことをまずお伺いをしときたいと思います。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　団体の登録に当たりましては、登録資格を理解してもらった上で申請していただいており、その後、市において審査いたしまして、登録証というものを発行しております。平成３１年１月に御指摘がありましたので、再度登録資格の確認とともに、各団体への登録の継続意向調査を実施いたしました。そうしましたところ、センター開設から１５年が経過していることもあります。それと活動休止などのために登録資格を満たしていないという団体が存在しておりましたので、この調査後の現在では、調査前と比べまして約半数強の５４団体となっております。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　承知いたしました。それで、当然、利用規約等がありますので、またその後の活動実績等っていうものもしっかりと見ていかないとやっぱりいけないかなっていうふうに思ってるんですけども、今の活動状況とか、団体の皆さんの利用規約に合致しているかどうかっていうことについての確認状況っていうのは、どういうふうになってるんでしょうか。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　登録団体につきましては、約束事がございます。営利目的、特定の政治的団体活動、宗教活動、暴力団、こういったところは言うまでもございませんけれども、一番大事なところとしまして、男女共同参画社会の実現に賛同し、男女共同参画センターの活動に参加することということで、具体的には連絡会というのを年３回設けております。中１回は研修会もあわせて実施しておりまして、そういったところにも御参加をいただいているということ、それからかぷりあ祭というのがありますけれども、登録団体が一堂に会して、もちろん一般市民の方にも御参加をいただくお祭りでございますけれども、こちらで一団体一役を担っていただいております。こういったところから活動の実績というところが担保されているものと承知しております。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　承知しました。これまでも何回かそういう形でしながらも、実績としてどうなんだろうということが、何度か指摘もされてきましたので、今後もしっかりと活動実績ですとか、実際の活動内容だとかっていうところも、確認をしていただきたいかなというふうに思います。やっぱりこのセンターの利用っていうことそのものが、やっぱりいろんな意味で優遇されたりする部分もあったりしますので、市がしっかりと確認するっていうことは必要だと思いますから、そこをお願いしたいと思います。

　あともう一つは、今後の問題になるんですけれども、庁舎の再編ビジョン等に伴って、結構まあまあ人数としては利用実績がありますよということで、これは累計になると思うんですけれども、なっていますので、現在の利用実績に伴っての利用人数に再編をした後といいますか、支障はないのかなっていうことを一つ伺っておきたいと思います。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　庁舎再編に伴う移転につきましては、今後再編ビジョンに基づき、検討することとしますが、その際には利用者の利便性等を考慮しまして、関係所

管課と協議してまいります。

○門脇分科会長　それでは同じく、男女共同参画センター運営事業について。

石橋委員。

○石橋委員　この登録団体が半減したということについては、先ほどの説明で納得しましたが、決算額がそんなに減ってない、利用団体が半減した割には減ってないっていうことは、やはり活動実績がないっていうところが多かった。１５年の間に、登録はしたけどあんまり使ってないわっていうところが多かったということなんでしょうか。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　そのとおりでございます。活動休止などのためにというところが、団体数減の大きな理由でございましたので、利用人数と決算額には影響が少なかったということでございます。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　私もかつては参加していた団体の中に入っていて、かぷりあ祭にも参加したことがあります。にぎやかなお祭りで、いろんな団体が活動をしておられるっていうのはよくわかったんですけれど、その中で男女共同参画の理念をどう進めるのかみたいな、中心的なテーマ、押し出すような芯が欲しかったなっていうふうに、何かいろんな団体がいて、にぎやかで終わっちゃったみたいな感じが大変しました。この男女共同参画センターの運営については、そういう団体はセンターを使ってもらうという、利用してもらうことの待ち受けになってないだろうかというふうに思っていまして、このセンターを使って、どういうふうに事業を進めようとしているのかということをお伺いしたいですが。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　男女共同参画というものは、家庭生活や社会活動やいろんなあらゆるところにかかわっていく問題だと思っております。本当に男女共同参画そのものをテーマにして活動しておられる団体ももちろんございますけれども、間口を広くしてといいますか、さまざまな団体を巻き込んでというところも、市民との協働のあり方の一つかもしれないなというところで、来る者拒まず、ただし勉強してくださいというところで、たくさんの団体の御参加をいただいております。先ほども申し上げましたように、連絡会であるとか交流会であるというところも、団体同士のネットワーク形成に重要な部分だと思っておりますので、そこも継続して実施をしています。さらに、センターに来ていただくとわかると思いますけれども、標語であるとか、各種資料、図書など、陳列してございます。会議室を御利用いただいた際には、そのあたりも目につくように工夫を凝らして展示をしているところでございます。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　その共同参画の登録の団体の中での連絡会、研修会もですけれども、やっぱり市民に広くアピールしていくような共同参画の考え方について、市民が深めていけるような催しが必要ではないかと思います。やっぱりちょっと目に見えないという感じが、以前は商業施設の一角にあって、関係ない人でも、あ、こういうのがあるわっていうので目に触れるっていうところもあったんですが、今はちょっと旧庁舎の中ですので、用があって行く人以外はほぼ目に触れません。そういう存在になってるなっていうふうに思います。もっと市民の中にアピールしていくというか、働きかけていくような活動をやっぱり企画

していただきたいなというふうに思っています。

○門脇分科会長　それでは同じく、男女共同参画センター運営事業について。

よなご・未来、国頭委員。

○国頭委員　私も皆さんと同じような考えといいますか、意見で、これは要望になりますけども、松江市さんのセンターなんか見ると、前の米子市の駅前イオンのようなところで、オープン的に、ここの団体も１００は超えてると思いますけど、市民に触れたような場所でやっておられます。そういう点で見て、団体数は精査されたと言われますけども、やはり５０近くも、団体数はやはり市民の活力といいますか、元気というような意味合いもあると思いますので、私は団体数がこれからふえていくように、今後ＰＲといいますか、こういったことが登録すると活動ができますよというような、こういったものが場所があって使えますよというようなＰＲをぜひしていっていただきたいなと思っておりますので、これは要望といいますか、お願いということでしたいと思います。以上です。

○門脇分科会長　それでは次に、８ページ、事業番号１５番、男女共同参画啓発推進事業について。

今城委員。

○今城委員　この事業において、特に女性のパワーアップ講座というものが極端に減少しているなっていうふうに思っておりますが、この要因を伺いたいと思います。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　大きな原因としましては、例年３回実施していたものを１回としたためでございます。なお、効果的な啓発方法を模索する中で、平成３０年度事業では、新たな試みとしまして、パネル展やワークショップで作成した成果物の展示などを美術館で実施したりと、多くの方の目に触れる事業を、かわりにといっては変ですけれども、実施をしております。なお、講座企画の中でもパワーアップを図る講座については、特に講師の指導方法でありますとか、実施内容によって定員の変化もございます。ただ、定員自体は充足をしておりました。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。１２ページ、事業番号２４番、女性の専門職資格取得助成事業について。

政英会、岩﨑委員。

○岩﨑委員　この項目、ほかに多数の委員さんからも指摘がありまして、ちょっと驚いております。最初にトップバッターということでやらせていただきます。

まずは、決算において、事業の成果といたしまして、交付人数、それから決算額等、いずれも右肩下がりになっております。まずはこの要因の分析についてお尋ねします。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　事業開始初年度であります平成２８年度以外では、同程度で推移しているのではないかというふうに考えております。ただ、本当に広報が十分かという点におきましては、この事業を知ってもらう、そして利用していただくということで、さまざまな媒体を活用しまして広報を充実させてまいります。それと、多くの人が利用しやすい制度となるように、研究を続けていきたいと思っております。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　ぜひ研究をさらに深めてやっていっていただきたいということを、まずは指

摘をしておきたいと思います。その拡充がなぜ必要なのかというのは、もう御案内のとおりでございます。女性が活躍できるような社会というのが、まず一つありました。それから、昨今の例えば保育士不足でありますとか、介護士不足でありますとか、本当に大変不足しておりますが、社会にとっても、今、大変重要な問題がここにはあるわけでございます。女性の力っていうのも大変大きい力なんですが、それの資格取得のためということで、この事業目的、大変理解できるところでありますので、さらなる広報の拡充策、しっかりとこの事業が拡充していくように努力をしていただきたいと思いますが、今後について、どんな御見解がございますか、お尋ねします。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　拡充という点におきましては、今現在ちょっとやっていることというところでお伝えをしておくべきことがあります。広報よなごやホームページは言うまでもございませんけれども、保育施設であるとか、ハローワークなどの関係機関、それから子育て支援センター、それから乳児健診、それから５歳児健診等、そういった健診の場にも行ってチラシを配布させていただいております。それから、ことしはポスターも小児科医院であるとかスーパーマーケットさんなどにもお願いをして張らせていただいております。もっともっとたくさんの方に利用していただけるように、拡充をしてまいります。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　先ほど私が見解というか指摘を述べたとおりでございます。私どもの指摘はそのように思っておりますので、次の委員さんにお任せしたいと思います。

○門脇分科会長　それでは続きまして、同じく女性の専門職資格取得助成事業について。
今城委員。

○今城委員　発言趣旨として入れましたのは、今、政英会さんのほうで言ってくださいましたので結構なんですが、まずこの１４人の交付された方、皆さん就職のほうに結びついているのかどうなのか、ちょっと確認させてください。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　補助金を交付した人に対して、その後の就業調査は行ってはおりません。ただ、申請に来られましたときに、資格の取得の目的は何ですかというところを丁寧に聞き取りをしているつもりでございます。皆さんそのあたり、しっかり意識というか持っておられまして、一つは新しく職業につくため、それから転職のため、さらにはキャリアアップのためということを目的として持っておられます。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　そもそもが地方創生の米子市独自のとてもいい目玉事業としてこれやってきたことだと思いますし、ＫＰＩの関係もあると思いますので、さらに広報等でしっかりと対象の方をふやしていくことにもっと力を入れていただきたいというふうに思います。せっかくこんないい事業があるのに知らないということや、また先ほどおっしゃったキャリアアップができるんだっていうところについての、知っていただければチャレンジしていただく方もたくさんあると思いますし、とってもいいもので、私も一番最初の年には、さまざまな方に、こんないいこと米子市やりますからっていうことで、かなり申し上げたんですけれども、だんだんと先細りになるっていうことになると、やっぱりちょっといろ

いろと心配なものもありますので、ぜひその辺はお願いしたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、同じく女性の専門職資格取得助成事業について。

石橋委員。

○石橋委員　先にもう答えていただいてるところは聞きませんけれど、これはどのような資格の取得を助成するのかというところで、対象の資格というのは。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　一つの決まりというものを設けております。厚生労働大臣が指定する教育訓練講座というもので、それによって取得可能な国家資格、公的資格、民間資格などでございます。加えて実績といたしましては、先ほど来ありました保育士、介護福祉士、それから建築士、社会保険労務士、宅地建物取引士、医療事務など、さまざまであります。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　幅広い資格が対象になっているということがわかりました。であれば、本当にもっと利用率が上がってほしいというふうに思うんですね。１８歳以下の子どもさんのある女性っていう、そこが対象ということで、多少年齢的な幅とかは制限があるかもしれないんですが、出産後、なかなか女性がきちんと職業につくのが難しい中では、こういう補助の制度というのは本当にいいなというふうに思うんです。この助成額と助成を受ける期間はどうでしたでしょうか。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　資格取得に係る受講料や受験料などなどが対象でございます。そして、金額としましては２分の１補助、上限５万円でございます。年度内に一つという決まりがありますので、押しなべていうと毎年一つずつの一番高い取ったものの中の金額を申請していただくという活用の仕方がベストではないかなと思っております。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　女性が本当にしっかり働けるかどうかっていうのは、就職した後のやっぱり働きやすい条件とかっていうこともすごく大きいとは思うんですが、ただ、資格を持って働けるっていうのは、とてもいいことだなというふうに思います。出産後、働ける道っていうのは本当に狭いというふうに思ってますので、この助成制度をもっと拡充して、広く知らせて、本当に男女が共同参画できる社会の実現につなげるようにしていただきたいということで、もっと積極的に広げていっていただきたいということを、これ指摘かな、ぜひ強く求めたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、同じく女性の専門職資格取得助成事業について。

よなご・未来、国頭委員。

○国頭委員　同じであります。いい事業でありますので、そしてまた探せば、自分で払って資格を取っておられるような、そういった方ももしかしたらあるのかもしれない。そういった方がなくなるように、周知ＰＲして、できる限り努めていただきたいと思ってます。いっぱい申請が来られて、部長が困られるぐらい、していただきたいなと思っております。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　冒頭に委員長のほうからありましたように、今回というか、この委員会って通告制をとってますよね。それで、最後の指摘事項の取りまとめの際は、指摘事項として

は発言のあったものでないとだめだというのがありましたね。そうすると、委員会として集約するときに、他の委員がこの件について、ほかの該当の通告した委員がなければ、他の委員が発言をすることは問題ないですか。

○門脇分科会長　問題ありません。

○中田委員　じゃあよろしいですか。なければですよ。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　簡単にいきます。この制度なんですけど、とってもいい制度だと思ってまして、ただ、出産後の産後育児の段階で忙しい時期から、子どもを、例えば乳児だけども何とか保育園に預けられる段階に入っていって再就職をしていくという、この時間的なところの中で、資格を取って再就職するというところの時間的な問題だとか、その余裕とかっていうのは非常に限られていますね。だけど、制度としては非常にいいわけです。その中で、実際の資格を持って再就職をできる就職先というのが、米子市内の中では非常に私は限定的といったら悪いですけども、限られたところの中で存在していると思うんですね。多くは保育園に預けられるような段階になると、パートタイマーとかそういった形で、直ちに稼ぐほうに向かっていくということが多いわけです。ただ、実際には、例えば鳥大のいろんな事業のセクションの中には、現在募集がかかってるけど、なかなか来てもらえないというようなところもあったりするんですね。そういったところのマッチングがうまくいってない部分が恐らく多いんじゃないかって私は感じてまして、要するにそういう資格を持った人を求めてる、あるいはその資格と同等の能力を持っていること、人材を求めてるセクションと、そこにあるニーズと、資格を取ったらそこの就職先が拡大するというか、ふえるというところのマッチングができる作業がなかなかないと思うんです。そこの就職情報といいますか、求めてる会社側だったり事業所のほうの情報と、この資格を取る制度のところのマッチングをうまくさせるようなことを、これは考えていくべきではないかって私は思うんですけど、いかがでしょうか。

○門脇分科会長　河田男女共同参画推進課長。

○河田男女共同参画推進課長　就職活動に関しましては、県のほうでレディーズ仕事ぷらざ米子というところがハローワークと併設してあります。そこにも資格取得のポスターなどを張らせていただき、また連携という意味合いにおいて話もしております。ただ、本当に就職の成功率ということに関しましては、本事業の利用にかかわらず、社会の情勢であったり個人の置かれた状況であるということが、大変に左右される大きなところだと思っております。ただ、再就職という目標にたどり着くには何年もかかるというような方もまれではないと考えております。ただ、本事業が、子育て中だけどちゃんと目的を持って頑張っている女性を応援する、そういったカテゴリーで実施をしております。ただ、一つ一つには、いずれ、どのような形であれ、女性のパワーアップとかエンパワーメントとか、そういったところに必ずつながっていくのではないかなと思っております。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　最後、指摘といいますか、この事業はとてもいい事業なので、これをさらに成功に結びつけていくということになると、先ほど言いましたように、僕は一つ、鳥大の中の事業の、求人情報といいますか、そういったことを今取り上げましたけど、恐らくこれから外国人がたくさん来られたりとか、いろんなことも含めて、女性のスキルアップが

すごく有効にというか、能力を発揮する場面で、極端に言うと、レストランとか、いろんなとこも含めて当然あると思うんですよ。ですから、そこら辺の事業所の情報とこっちの制度がうまくマッチングできるようになる、そういったこともぜひ取り組んでいただきたいということを指摘といいますか、要望しておきたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、以上で総合政策部所管部分の審査を終了いたします。

予算決算委員会総務政策分科会を暫時休憩いたします。

午前１１時５４分　休憩

午後　１時００分　再開

○門脇分科会長　予算決算委員会総務政策分科会を再開いたします。

それでは、議案第７９号、平成３０年度米子市一般会計等の決算認定についてのうち、総務部所管部分を議題といたします。

発言通告一覧表、３ページをごらんください。決算に係る主要な施策の説明書の１８ページ、事業番号３５番、伝わる広報推進事業について質問を行います。

中田委員。

○中田委員　この事業、私も実は聞いておりまして、非常に軽快でおもしろいなと、あの職員さんはシューズが好きだったんだとか、そういうこともよくわかりますし、いい番組だと思います。

この事業は、要はわかりやすく市の情報を提供するっていう目的でつくられているということで、ホームページのほうでも聞けるように、コミュニティＦＭの放送が、音源がホームページで聞けるということなんですけども、質問で通告させていただいたのは、この事業とホームページのアクセスの関連性分析というのはどうなっているんですかっていうことで質問させていただきました。まず、そこからお願いしたいと思います。

○門脇分科会長　土井秘書広報課長。

○土井秘書広報課長　この事業につきましては、ダラズＦＭさんの中で市の情報とその職員が感じる魅力といったものを放送に乗せて皆さんに聞いていただくという事業なんですけれども、先ほど中田委員が言われましたように、ホームページのほうにも再放送分ということで載せてはおります。その中で、アクセスが、平成３０年度につきましては、初回が４月１３日放送だったんですけれど、ちょっとここは宣伝不足といったこともありましてアクセス数はなかったんですけれども、徐々にふえてまいりまして、３回目の５月１１日といったところは２５８アクセスといった閲覧がございます。平成３０年度全体を見ますと、３，００３の閲覧数があったというところでございます。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　今回の確認として、このアクセス数のところでこれだけの数字が上がっていて、とてもいいことだと思いまして、それで、多分これから、いろいろ今、防災とか災害時の要は情報というような問題もあってＦＭ放送に対する関心度は高いですから、特に地元のコミュニティＦＭってことになれば通常の手持ちのＦＭラジオで聞けるわけですから、受信機が特別にないといけないということないので、市の情報を入手する情報ツールとしては非常に有効に今後も使えるツールだと思っていまして、そこのところで、なかなか市報を見ていただきにくい方々がこういったところからアクセスするということは、非常に私はいい事業だと思っています。

実際聞いてみると、非常に上手なというか、本当にテンポよく、いい感じで、耳ざわりもいいですし、インテイクというか入り口として非常にいいなと思ってまして、ただこれ、どうやら私が質問通告したころには改善されていたようですけれども、これでホームページをアクセスしてみたら、非常にここにアクセスするのにどえらい時間がかかりまして、どこから入っていっていいかどうかわからなくて、結果的に、聞いたら組織図のとこから入っていくみたいなことだったわけですね。

やっぱり、そこのとこはもう改善されたようですので、３０年度の決算の話で言おうかと思ったらもう改善されたようですけれども、実際に音源だけで提供するよりも、ラジオは音源だけで、要するに情報というのが頭の中でイメージできなきゃいけないものなので、それだけでも本来は十分かもしれませんけど、せっかくパソコンのところまで、ホームページまでアクセスしてきたんであれば、例えば先日の、ちょっと財政の話が出たときであったら、米子市の財政に関連するグラフが出るとか、あるいは主要な事業だったら、それに関連する画像が出るとかっていうことで、もう少し、せっかくアクセスされた部分を今度は目でもわかりやすくっていうところまでもう一歩踏み込んでもいいんじゃないかなと思って私も見させていただきましたし、私のところに、最初、アクセスがどこから入っていいかわからないという情報を下さった方々もやっぱり同じようなことを言っておられたんですが、その辺について御見解は何か、この事業をやってて持っていらっしゃいませんでしょうか。

○門脇分科会長　土井秘書広報課長。

○土井秘書広報課長　先ほど御質問がありましたとおりといいますか、確かにホームページでアクセスをするのに、最初おっしゃったとおり組織から入っていくということで、非常にわかりづらい状況だったものを、御指摘をいただいたということで、ホームページのトップページのところに米子市の広報という欄を設けまして、そこから入れるようにしております。

さらに、アイキャッチですね、視覚情報も入れてはいかがかといったような御提案でございますが、なかなか音声のところで画像を張りつけるというのが難しいもので、その辺につきましては、確かにそういったアイキャッチっていうのも、誘導していく、内容をよく理解するっていうのには必要であると思いますので、ホームページ全体の容量を見ながら、できることから対応していきたいなというふうは思っております。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　これは３０年度決算ですので、予算委員会みたいにこれからどうするだみたいな話は余りしたくないので、あえて３０年度決算に対する指摘といいますか、それをさせていただくと、要するにインターネットの公開用のホームページといいますか、ここまでアクセスしてこられることを想定した事業であるならば、そこのちょっと充実度が視覚情報を含めてというところでは、いま一つ完成度が物足りないと、ここの改善が必要ではないかということを指摘させていただきますし、それからちょっと一つ、これをお伺いしておきたいのは、今、何でもかんでもホームページにすごく要求度が高まってまして、先ほど画像データも今、簡単に張りつけれるものではないですよね、音源だったら入るんですけど。米子市のホームページ自体のキャパとか契約とかの中身っていうのが、これからどんどんどんどんホームページの要求度が高まると、どっかで更新しないと限界に来ても

対応し切れなくなるというか、いろんな方々がそういう世界になれてしまって、日常の情報収集に、そこら辺の不安要素というのはないんですか。

○門脇分科会長　土井秘書広報課長。

○土井秘書広報課長　シティプロモーションの観点からも、こういったホームページっていうところの重要度は増してくると思いますので、今後その容量とか見やすさとか、そういったところを研究してまいりたいとは思います。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　先ほど申し上げた、要はホームページのところでの視覚情報も、そこら辺の指摘と、それから情報量のこととしても今後もますますふえるであることが想定される、このことに対することについて、ぜひ更新について研究されることを、これも指摘しておきたいと思います。以上です。

○門脇分科会長　それでは、次に、３３ページ、事業番号６５番、シティプロモーション推進事業について。

岩﨑委員。

○岩﨑委員　それでは、シティプロモーション推進事業について質問してまいります。まず、この事業、ちょうど３０年度からだと思います、ですよね。伊木市長のいわゆる肝いりの事業というか、ぜひこれを推進すると。私らは、議員のほうからも、一般質問等もこれまでも繰り返してまいりました。初めての１年間が終わったわけでございますので、まずは、その事業成果について御見解をいただきたいと思います。

○門脇分科会長　土井秘書広報課長。

○土井秘書広報課長　まず、先ほどもおっしゃっていただきましたとおり、３０年度から始まった事業でございます。３０年度、昨年度当初に、シティプロモーション推進方針を策定いたしまして、３０年度はそれに従って事業展開してまいったところです。

その推進方針といいますのが、まず初年度につきましては、市役所全員、職員全員が広報官を目指しまして、庁内の機運醸成と職員の広報力、広報スキルの向上を図りつつ、市民に対して本市の魅力を再認識していただくといったところに力を入れてまいりました。その中で休眠怪獣シロヤマといったところで、高専と連携しましたＰＲ動画を作成したりとか、あとは米子城フェスタのあたりに関連しまして、加茂川周辺、米子城への登山とか、そういった米子城の魅力といったようなところの散策リーフレットを作成したり、城山の頂上といいますか、上のほうで天空カフェを実施しまして、そのカフェのところでは、キャッスルマウンテンというコーヒーをシティプロモーションのワーキンググループで開発していった、これは民間の企業の方とコラボという形で開発して、天空カフェで御披露したといったこともございます。また、そのほかには、広報推進員を各課に配置しまして、なるべくイベントとか市の情報とかを集約できるようなスタイルに今移行しつつあります。先ほどのコミュニティＦＭに市職員がみずから出演して、情報発信と市の魅力、自分が感じる市の魅力を発信していくといったようなことをしてまいりました。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　決算の概要、それから事業の成果においてということで、市内外に広く広報を行ったと書いてありますが、それは間違いですよ。要は内向きの、今回初年度だから、まずは内向きというか、まず足元をしっかりとっていうことを表記されるべきだったのか

なと思います。それ一点、私は指摘をしたいのですが、もう初年度からどんどん外向きも考えていったらいいじゃないのということを、これまでもずっと提言してきてまいったところでございます。

その辺の背景というか、まずこのシティプロモーションで、なぜシティプロモーションが必要なのかということを、ちょっと原点に返ってもらって、総務部長でもよければお話をいただきたいのですが、例えば地方創生推進という意味合いで、さらに広く米子市を売っていくんだというような考えがあるのであれば、またそういう原点に返って、もう一回ちょっとその辺のところをお尋ねしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○門脇分科会長　辻総務部長。

○辻総務部長　岩﨑委員御指摘のとおり、シティプロモーションをなぜ行うかといえば、やはり外向きの広報というのが内向きよりも重要であるということは間違いないことであろうと思います。ただ、我々自身がスタートといたしまして、米子大好き、米子の魅力をというのを、まず職員みずからが思っているのかなっていうところからスタートしまして、地道なところからやっていこうと。そしてまた、米子市民の皆様にも米子に特に愛を感じていただいて、米子はこんないいところがあるよというのを知っていただきたいところは、やっぱりまず押さえていきたいなということがありました。２年目となりましたので、今年度はさらに動きを強めているところでありまして、ＵＩＪターンの動機づけとなるＰＲ動画やブランドブックの作成、それから、ふるさと納税の寄附者にメールマガジンを毎月送るようにもいたしまして、関係人口の拡大や能率化も図っているところでありますし、今年度も昨年度に引き続き高専さんとの動画、コラボでつくったりしておりまして、ああいうところから報道にも取り上げていただいておりますので、米子の魅力をまたこれも発揮できるのかなというふうには思っております。

観光というようなことも、かつての米子市で今一番機運として盛り上がってきているんじゃないかなというふうに思ってますので、経済部とかとも連携しながら、また民間の方とも連携を強めていきながら力を入れていきたいと考えております。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　そうしますと、今までお話をいただきましたが、ちょうど３０年度から始まった事業で、それについての監査、監査というか決算ですから、特に議会側としては会計監査というよりは事業監査をしっかりと考える中で、当然、次年度策定予算要求は恐らく１０月以降ということになってまいります。

指摘しておきたいのは、認識は多分我々も一緒ですし、執行部の方も、全く副市長も同じ考えだと思うんですが、しっかりと、やっぱり攻撃的に、外向けにそろそろやっていかなきゃいけないんじゃないかということです。一例を挙げれば、例えば縁の道の動画、インバウンド機構か何かが動画を作成しています。それだけの予算をかけてますが、実に年間２００万ビューですか、自治体がつくったものに関してはとんでもない実績を上げている、この山陰のよさを本当に的確にあらわしている。３１年度、動画を作成されたと言われたわけでございますが、ぜひともそういうふうにやっぱり仕掛けを考えていただきたい。それだけの予算もつけて、しっかりとやるべきなんじゃないかということを指摘いたしまして、質問を終わりたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、次に、２０ページ、事業番号３９番、米子ゴルフ場整備事業

について。

岡田委員。

○岡田委員　米子ゴルフ場整備事業ということなんですけれども、平成３０年度は空調設備を改修するということで、予算がふえているんですけれども、これは基本的には、米子ゴルフ場の空調をされたらもう、あと当面、大きな設備投資というのはなかったですか。

○門脇分科会長　瀬尻総務管財課長。

○瀬尻総務管財課長　３０年度に、２階の空調の設備の改修をしたんですが、令和元年度には防球ネットのウインチの修繕が、これが１，１５０万かかっております。今度の２年度にも散水用のポンプユニットの修繕ということで、この部分も１，０２６万円かかる予定です。さらにまた、３年度も、今度はクラブハウスの１階部分の空調も改修するのに２，１００万を予定しております。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　平成３０年度のところなんですけども、財源内訳を見ますと、地方債とそれから一般財源ということでこれをやっておられるんですけども、以前もお話しさせてもらったと思うんですけど、米子ゴルフ場事業そのものが単年度で、これは指定管理ですか、どれだけ収入があって、どれだけの支出があって、要はどれだけ基金が、基金という形でこれは積み立てしてましたか。いかがですか。

○門脇分科会長　瀬尻総務管財課長。

○瀬尻総務管財課長　これは指定管理ではなくて、米子ゴルフ場は、その土地、施設等を株式会社チュウブに貸し付けをして、業者に運営をさせております。一応その貸付料をもとに、貸付料のほうが３０年度が５，７６０万円で、その枠の中で空調の設備の改修等、あと松くい虫、松枯れ等の伐採工事の保護事業をやっております。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　貸付料が５，７６０万ですか。これは収入によって毎年違うんですか。

○門脇分科会長　瀬尻総務管財課長。

○瀬尻総務管財課長　単純に１０年間、今ですと、令和９年度までが１０年間で５，７６０万ですけど、令和元年度に１０月から消費税が改正されるに伴って、令和元年度は５，８１３万３，３３３円で、令和２年度以降、消費税が上がりましたら５，８６６万６，６６６円を、残りの年度をこの金額でさせていただいております。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　単年度ごとの売り上げがきちっと、売り上げというか貸付料ですか、米子市からすると収入があって、どうも松くい虫やなんかのこともあって、お金そのものは結構かかってるみたいなんですけども、そもそもでいくと、ゴルフ場経営そのものを米子市がすべきなのかどうなのかというのがちょっとあるんだろうとは思うんですけれども、少なくともここから米子市が手出しをしないといけないということがないように、単年度ごとのきちっとした売り上げと、あと出ていく支出、ここでも書きましたけど、計画的に支出をしていただきたいということで、将来的にはどういったことを考えておられるのかっていうのはまた議会でもいろいろと話をしていくんだろうと思うんですけれど、３０年度は収支としては特に問題はなかったということでよろしいんですか。

○門脇分科会長　瀬尻総務管財課長。

○瀬尻総務管財課長　３０年度ですと、支出の合計が、契約額３，３１０万１，４５２円で、それの５，７６０万の賃貸料から差し引きして、２，４４９万８，５４８円は収入のほうが上回っております。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　最後になりますけど、差し引きのプラスの部分というのは別に基金に積み立てるとか、そういうことじゃなかったんですか。一般会計の中で回しているということなんですか。

○門脇分科会長　瀬尻総務管財課長。

○瀬尻総務管財課長　貸付料の中で回すという形になります。

○門脇分科会長　尾沢委員。

○尾沢委員　米子のゴルフ場の件ですが、このところ大家としては収入源はいいんですが、ゴルフ場としての機能が、松くい虫等で、多分７０％ぐらい松が切られている状況だと思うんですよね。皆生海浜のあたりででも松くい虫はあるかもしれませんですが、特に米子ゴルフ場の松の状況というのは危険な状況だと思われます。何が危険かといいますと、球が飛んでくるのが、全て、今までは松がブラインドしてるために隣のコースに飛ぶということが、昔のコースはなかったんですが、ここ２年か３年の間にそういう危険性が非常に高くなってきたゴルフコースだと思ってまして、大家としても無関心ではいられないのではないかと思っていますが､そこらあたりについての協議はなされておりますでしょうか。

○門脇分科会長　瀬尻総務管財課長。

○瀬尻総務管財課長　２９年度までが松枯れのほうが、かなり本数が出てきまして、今後は３０年度以降に向けて、３０年度に米子ゴルフ場のほうで試験的に植樹のほうを行っております。令和２年度以降に関しては、植樹のほうを中心に、苗の２．５メートルぐらいのものをちょっと多目に植えていくということで、チュウブさんのほうとは協議を進めております。

○門脇分科会長　尾沢委員。

○尾沢委員　ゴルフ場そのものの管理っていうか、その経費っていうのも米子市が負担しなければならないという約定になってますでしょうか。

○門脇分科会長　瀬尻総務管財課長。

○瀬尻総務管財課長　大規模な修繕ということで、松枯れとかの、資産ですので、米子市のほうで出さないといけないということになっております。

○門脇分科会長　尾沢委員。

○尾沢委員　通常管理はチュウブのほうでなされるはずだというふうに確認してますが、これは特別ケースとして、そのような対応をしなければならないということでしょうか。

○門脇分科会長　瀬尻総務管財課長。

○瀬尻総務管財課長　確認書のほうで、松枯れ被害対策のように、植林並びに大規模な施設に関しては、米子市の費用負担で行うということになっておりますので、それに基づいて植樹のほうを行っております。

○門脇分科会長　尾沢委員。

○尾沢委員　大変に評判のいいゴルフコースなので、危険性さえなければ、これからももう１０年続けていくことが可能だろうと思っていますので、管理のほうもよろしく行って

ください。現実に米子市の観光地として、この米子ゴルフ場は役に立っているだろうと思っています。よろしくお願いします。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。

５ページ、事業番号９番、自主防災組織育成事業について。

岩﨑委員。

○岩﨑委員　それでは、ほかの委員さんも出ておられますので、うちのほうからは何点か。まずは、この結成率のさらなる向上を求めてということで、実態として２９年度末、結成率が何％で、３０年度末で何％になったのか。まず、それについてお尋ねをしたいと思います。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　自主防災組織、２９年度の結成率は６４％でございました。３０年度につきましては新たに３９組織が結成しまして、結成数２８８、結成率は約７１％に向上しております。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　たしかそうだったなと思います、３０年度でぐんと伸びたんですよね。この流れはいい傾向で、３１年度も多分、結構つながってきてるんじゃないかなと思います。随分、努力の跡がうかがえるということを最初に思っておりますので、ぜひこのまま頑張っていただきたいなと思います。

ただ、私どもの指摘というのは、結成率を追うばっかりではなくて、やはり育成というのにも重点を、結成したはいいけど、あんまり訓練も何も行われてないようなところも見受けられると仄聞しておりますので、そういう観点から質問したいと思います。３０年度は、自主防組織の育成補助金としては１２７件あったという報告をいただいておりますが、できれば、その内訳というか大体重立ったのは、どんなことでその件数上がっているのか、何に対しての補助なのかお尋ねしたいと思います。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　育成補助金の内訳でございますが、３０年度、育成補助金の中には資材購入、それから訓練等への支援がございました。資材の購入補助につきましては５１件、訓練への補助につきましては７５件でございます。組織数からいいますと、約半数の組織で活用していただけているというふうに思っています。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　最後に言われたことがもう一回聞きたかったことなんですが、大体、現在の結成された組織の中でどれぐらい活用されているのか、約半数だということでございました。これは了解しました。

この時代ですから、本当に災害がいつ、何どき、どこで起きるかわからないこの時代に、本当に最後に頼りになるのはやっぱり地域力ということで、特に自主防組織というのは、フルに力を発揮するためにも、ふだんからのやっぱり努力が必要です。そのためにも、やっぱり情報をしっかりと共有しながら訓練していくということが何よりも重要だということを指摘したいと思います。そのためには、ほったらかしにはできないので、ぜひ、やっぱり仕掛けとして米子市のほうでしっかりとリードをしていただいて、結成はもちろんですけど、地域の育成にも力を入れていただきたい。このことを強く指摘をいたしまして終

わります。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　委員御指摘のとおり、災害時に機能が発揮できての自主防災組織だというふうに認識しております。今年度は西部消防局から元米子消防署長、眞壁調整官を採用いたしまして、さらに体制強化を図っているところでございます。

○門脇分科会長　次に、同じく自主防災組織育成事業について。

今城委員。

○今城委員　結成率、先ほど伺いまして、多分出前をずっとしてくださったりとかしてたので、上がってきてるなというふうに思います。あと、未結成自治会数、それは単位がどういうふうな形になるかということでもちょっと違ってはくるんですけど、その辺の考えというか、未結成の自治会数について教えてください。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　平成３０年度の自治会数は４１７、うち２８８が結成しておりますので、未結成の自治会は１２９でございます。なお、令和元年９月現在におきましては１３３組織にふえまして、未結成の自治会は１０４に減少しております。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　承知しました。なかなか、ここは進まないというところは、多分いろんな課題が根本的にあるんだろうとは思うんですが、やっぱり皆さん共通認識だと思いますが、自主防災組織がいざというときに本当に機能するっていうことが大事ですし、ないというところは機能もしないということはもう認識は共通だと思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

あともう一つ、ちょっと細かいですが、コミュニティ助成事業の活用により防災会に除雪機を整備というふうに事業成果がありまして、こういうことがあるんだったらほかでも活用したいというようなことがあるのではないかなというふうに思ったものですから、この内容とか活用の仕方など、整備の方向性とか、ちょっと教えてください。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　コミュニティ助成につきましては、毎年、各自治会に応募をかけておりまして、３０年度につきましては、岡成地区から除雪機の要望があったものでございます。３０年度は、これ１件でございました。

○門脇分科会長　今城委員。

○今城委員　わかりました。毎年なのかどうなのかということがちょっとわからないのであれですが、こういうこともあるんだということを広報していただいて、手挙げがありましたらしっかり、多分この除雪という問題も非常に地域では大きな課題になると思いますので、もしそういうことが可能でしたら、しっかり広報も含めて取り組みをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。要望でいいですので。

○門脇分科会長　次に、同じく自主防災組織育成事業について。

中田委員。

○中田委員　結成率の部分に関しては先ほど来出ましたので、これは結構ですけれども、現時点で１０４の未結成ということで、結成率も７１％ということで、かなりこの夏の御努力が成果を結んできたなと思いますけど、これから理想である１００パーを目指してい

く上で、やっぱり私は各地域の特性とか、こういったことに合わせたフォローがどうできるのかっていうことだと思うんですね。最初のころ、例えば東部のほうの自治体とかなり数字的に違いがあったりとか、これは、ちょっと僕も何かいろいろ聞いてみると、結成のときにどういうつくり方をするかというか、その数字のカウントといいますか、例えば自治会の中でぽっと委員会みたいなものを設置してしまって、できましたっていってやれば数字もぐっと上がるでしょうし、実でちゃんとできるかどうかというところが肝心で、そうでないと自主防災というのは意味がないと思うんですけれども、そこら辺の結成時の地区別、特性別のフォローというのはどのような取り組みをされてきたのでしょうか。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　議員御指摘の地区ごとの特性ということにつきましては、まだまだちょっと分析が足りないところがございますが、地区ごとで申しますと、校区ごとなんですが、３０年度末、１００％の地区は４地区ございました。７５％から１００％未満の地区は１０地区、５０から７５％未満が５地区、５０％未満の地区は８地区でございました。また、結成率向上のために、皆さん御案内のところですが、２９年から個別に未結成の自治会に訪問いたしまして、結成促進を働きかけているところです。一度でなかなか結成されることもなく、二度三度足を運んで結成しているところでございます。今、９月現在では、５０％を下回る地区というのはもう１カ所のみになりました。でも、やはりそれぞれの地域特性があると思いますので、それに応じて粘り強く、さらに向上させていきたいというふうに思っています。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　実際、私の住んでるところなんかの自治会は、急傾斜を自治会内に抱えていたりとか、あるいは過去、割と大火につながるような火災の経験があったりっていうことがあるもんですから、意識が結構高いんですね。地域によって、水害であったり、急傾斜問題だったり、火災であったり、あるいは救急搬送のような事象だったり、さまざまな切り口としてはあると思ってますので、ぜひ、地域の特性別の結成促進の分析というのはやっぱりすべきではないかということを申し上げておきたいと思います。

それと、先ほどちょっと出ましたけど、結成後のフォローが、これも実際経験してきたことなんですけど、機材を買ったら補助がされるということなんですけど、どういうものから選んで、何を配備していけばいいのかっていうことが、自主防災ですから知識と経験が不足してますから、その辺が、何にしようかっていって買ったのはいいけども使いこなせなかったりとかですね。うちも練習して担架に乗せるところから始まって、まるで喜劇を見とるような、誰も乗りたがらない、運ばれたがらないというようなことも起きるわけですね。それよりもいっそ、例えば車椅子のほうがいいよという自治会が出てきたり、もう車椅子どころか、リアカーのほうがいろんなもんに役に立つっていうところが出てきたりするわけです。要するに、何が必要なのかという知識がないわけですね。そこら辺のところから結成後のフォローをやっていかなければいけない。結成後のフォローの体制がどうなのかということを、まずお聞きしておきたいと思います。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　結成後の支援につきましては、各自主防災組織からの訓練や活動に関する相談を受けまして助言を行ったり、あるいは、それぞれが訓練や活動しているとこ

ろに職員を派遣いたしまして、指導等を行っているところでございます。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　本会議でも防災士の話も出てましたし、そういうことはどんどんに取り組んでいけばいいと思いますし、私も経験上、それぞれの地域に消防団があるので、消防団との連携を市の職員さんたちが直接フォローするのもそれはありがたいことなんですけど、せっかく本市が消防団を持ってますので、消防団と地域とのかかわりという、これももともとありますよね、そもそも。ですから、これと自主防災組織との連携強化をすべきではないかと思っています。

しかも、専門的な知識がどこまで必要かっていうところにこだわり過ぎずに、経験からいきますと、本当にアウトドアの知識みたいな、ちょっとサバイバルっぽい知識が結構、本当の場面では役に立つんですね。その代用に何ができるかとか、搬送のときもそうですし、けがのときもそうですし、アウトドア用品なんて結構日常的に身の回りにもたくさんあるんですけど、余り消防専門知識みたいなことを、それは究極的にというか、理想的には必要なんですけど、自主防災の性格上からいくと、そういうレベルの知識をどんどん普及すべきではないかと実は思っていまして、そこに消防団や常備消防や、そういった市の職員さんや防災士なんかの専門知識がフォローする形をとったほうが、より実効性の高いものが出ていくんではないかということをもっと進めるべきだと思います。ぜひ、それを進めていただく、それは指摘をさせていただきときたいと思いますので。そうしないと、自主防災組織っていうのは、いざ本当に自主的に機能するかどうかのところが、訓練だけやっとって、この間も台風が直撃だという話が来た、どのくらい雨が降るかまだわからない、それで夜中に来る、そうすると、先ほど言いました急傾斜を持っているようなところは、自主的に高齢者をどの時点で避難させるかというところで、対象者だけの自主避難を置くんではなくて、訓練してきたんだけども、どうなのという電話一本とか、夜中になかなか一緒に連れて歩くなんて、高齢者同士で避難所まで行くなんて、そんな雨の中を風の中をというわけにはならないんですけど、せめて誰か迎えに来てくれる人がいるかとか、安否の事前の確認行動みたいなことが自主的に本来起きなきゃいけないわけです。そうすると、やっぱり自主的な意識がどこまで日常的に高まっていくかということが非常に大事なので、あんまりハードルの高い育成っていうよりは、さっきみたいな啓発活動のほうがもうちょっと有効的に、実質的に動くんではないかということを指摘させていただきたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、次に、同じく自主防災組織育成事業について。

国頭委員。

○国頭委員　育成補助金についてということですが、これも４月に議会報告会を市内各地でやったときに出た話なんですが、結成のときの補助金に比べて今年度の育成補助金が、資材が最高がたしか５万円でしたっけ、訓練に対しては１万円が上限になってると思うんですが、市民の方からこの内容については、細かくは、どちらのほうがという話はちょっと伺ってなかったんですけど、結成に対して今年度の育成の費用がちょっと少ないんだけどもという質問がありました。もう少しふやすことはできないのかという話でした。そういった育成補助金についての意見等は何か防災のほうで伺っておられるのかお伺いします。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　機材購入、育成補助金の申請に来られる自治会の方からは、申請時に特にそのような指摘等はございません。

○門脇分科会長　国頭委員。

○国頭委員　訓練等で１万円なのか、多分収支等も上げておられると思います。何かそういう部分で活動するに当たっては、やはり毎年の条件もあると思うんですけど、そういった経費も必要になってくると思います。そういったものを、やはりアンケートなり、今年度は活動していくに当たっての何か要望等あれば聞くようにしていただきたいなと。それを取り入れて、今後の補助金の金額だとか、それに役立てていただきたいなと思ってますので、お願いしたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、次に、１１ページ、事業番号２２番、原子力安全対策事業について。

　石橋委員。

○石橋委員　この事業は、２８年度に比べ、２９、３０年度と決算額が倍増しているのはなぜでしょうか。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　２９年度の原子力対策基金４，０００万につきまして、大半が原子力発電所周辺環境安全対策協議会の委員報酬となっておりまして、２８年度は同協議会が１回、２９年、３０年度はそれぞれ２回開催しておりまして、額がふえているものであります。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　１回が２回になったということですか。この事業はほかには、その対策委員会以外にはどういうことを、例えば３０年度はされたっていうことなんでしょうか。ちょっと、どういうのがあったっていうのが、はっきりイメージがないんですけど。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　そのほか出前講座であるとか、そういったもの、あるいは訓練、それから原子力発電所の研修に行ったときのパンフレットとか資料とか、そういったものを作成する資料作成用の消耗品となっております。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　出前講座というのは、どこからか、自治会とかいろんなところから要請があったときには出かけられるということですね。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　そのとおりでございます。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　その内容というのはどういうことでしょうか。そして、そこのところに原子力防災への理解と関心を深めたというふうに書いてあるんですが、その内容としては、どんなふうに深められたのかということを。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　理解、関心を深められるための方策というか、実施した内容でございますが、原子力防災訓練や避難先等の確認訓練、それから先ほど申しました地域へ出向いての出前講座、それと、県と連携して島根原子力発電所の見学会や原子力防災講演を行

うとともに、原子力防災ハンドブックを全戸配布し理解を促しました。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　原子力防災訓練は、毎年、今回はこの地域ということでされて、その内容も船舶を使ったものだったり、いろいろ登下校にかかわるものだったりされてはいるんですが、でも、パターンとしては一定の地域の数人を対象にして、日曜日のお昼とかそういう形でされるわけですけれど、やっぱり訓練に参加しておられる人も、私も時々横のほうで、参加させてもらいながら、いろいろお話伺うんですけど、この訓練をしとっても、実際にもし原発で何かあったときには、こんなふうに整然とはなかなか行動できんだろうし、本当に避難に役立つのかなという声がよく聞かれます。そして、待ち時間にというか、行われる講習、この辺などでも、原子力というか放射能の基本みたいことが中心だったりするので、米子というのは３０キロ圏内にかかっている地域が４分の１ありますし、かなり危機感が強いと思うんです。実際に原発で何かあったらどうしたらいいだと思っている気持ちは、みんな結構強いと思うんです。そういうものにもう一つかみ合っていないというか、そんな気がします。

もっと、例えば今の福島の現状がどうであるのかというのは、このごろ、ほとんど新聞でも報道されませんが、決して原発事故が収束してるというふうにはみんな思ってないし、今の現状がどうなのかとか、あの避難のときにどんなことがあったのかとか、そういう現実的に自分の問題として考えられるような方法での講演とか、もっと、みんなの場合には本当にどうしたらいいかっていう、実際の問題として、どうしたらいいのかという気持ちに応えるようなことが必要だと思います。

これは要望ですけど、もっと原子力防災ということに関して違ったアプローチが必要だというふうに思いますので、要望しておきます。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。

１５ページ、事業番号２９番、被災者住宅再建支援基金拠出金について。

石橋委員。

○石橋委員　これは、県に積み立てられて、県が管理をされているというわけですよね。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　そのとおりでございます。被災者住宅再建支援基金は、鳥取県の住宅再建支援等の支援条例に基づきまして、鳥取県と各市町村が拠出して積み立てており、管理は鳥取県が行っております。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　積み立ての開始はいつからで、目標額が幾らで、現在の積立額は幾らでしょうか。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　積み立てにつきましては、鳥取県西部地震が端を発しまして、年については正確な年はちょっとお答えできません。ただ、既に積み立てが終わってまして、２８年の中部地震で基金の残高が減少したため、３０年度から再度始めたものです。

○門脇分科会長　永瀬防災安全監。

○永瀬防災安全監　少し補足をさせていただきます。制度の創設は、平成１３年からでございます。それで、目標としては２０億なんですが、平成２４年度に目標額を達したもの

で、２５年以降は、先ほど課長が説明したとおり、中部地震での適用の関係で、積み増しを再開するまでは一時とめていた時期もございます。以上です。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　一応達成したけれども、また中部地震で基金がなくなってきたので、積み立てを再開したということなんですね。災害があったときには、台風の被害とか、支出金の額などはどういうふうに決められるのでしょうか。支出するかどうかとか、どれくらいの額をその町に支出するかというのは。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　基金の適用基準につきましては、先ほど申しました鳥取県被災者住宅再建等支援条例に基づきまして行っておりまして、自然災害で圏内に１０世帯以上の住宅が全壊したり、あるいは一つの市町村で５以上の住宅が全壊、または一つの集落において世帯数の２分の１以上かつ２以上の世帯の住宅が全壊したもの、また、被災地域において地域社会の維持が困難なおそれがあるような被害があった場合につきまして、知事が市町村と協議して基金の適用を行うというふうになっています。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　これは、ちょっと要望になるんですけど、このところ災害が相次いで起こりまして、１０年に１回ではなくって、どうかすると１年以内に２回、岡山はこの間、台風で新見が大変でしたけど、１年前は真備町が大変でした。そういうのが、一つの県の中でも２度続けて起こるみたいなことがありますので、続けての備えって大事だと思うんですが、ただ、県とか市町村で賄えるっていうのは限りがあるし、先ほども言いましたけど、二度三度、災害が起こるっていうことも考えられることですので、これについてはやっぱりこういうときに、一緒ですけど、県にしっかり要請をしていただきたいというふうに思います。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。

次に、１６ページ、事業番号３２番、福祉避難所整備事業について。

石橋委員。

○石橋委員　この協定を結んでいる施設の数と、その施設で、協定について、大体収容が可能な人数というのはどれくらいあるんでしょうか。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　施設数につきましては、１３施設というふうになっております。収容可能人数につきましては、その施設ごとで調整を行いまして、緊急受け入れをしていただくようになっております。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　じゃあ、何人までできるとかいうようなことではないんですか。

（「はい。」と三木防災安全課長）

これはいつから、割と最近出た、はっきり覚えてなくて申しわけないんですけど、これがどんなふうに利用することができるのか、例えば被災者から申し出をしないといけないのかということになるとなかなかそれも大変かなと思いますけど。災害に遭って避難している最中で、じゃあ、そういう施設にどうやって行くのかとか、ここにいますよというのはどうやって市に連絡するんだとか、そういうことはあるんですけど、どういうふうな動

き方になっているんでしょうか。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　この際、施設への受け入れの要請でございますけれども、災害が発生した場合には、まず、市が指定しました避難所に避難していただきまして、それから、２次避難が必要と判断された場合に、その施設に対して緊急受け入れの要請を行いまして搬送するというような流れになっております。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　３０年度はマットを整備するということで、その協定を結んでいる施設にマットを配備された。まだそれでも足りなくて、また追加で配備をされるというふうに聞いてますので、そんなふうに、とりあえず何か必要なものを配備していくということで、そういうふうになるんですか。

○門脇分科会長　三木防災安全課長。

○三木防災安全課長　毎年施設のほうに要望を確認いたしまして、必要な資材について購入しているところでございます。施設からはそれぞれマットが必要という要望がございまして、購入したものでございます。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　施設も病院も本当にベッドに余分があるわけではないので、ベッドはないけどマットがあるという形だと、介助したり医療をする側からでも、介助、医療を受ける側からも大変困難な状態になると思います。

これは本当に一次的な避難所として仕方がないかとは思うんですけど、例えば原発事故のようなことになりますと、かなり避難生活が長期にわたるっていうこともあります。そうなると、本当に施設の側も避難者も疲弊する、疲れてしまうし、ぐあいによっては、やっぱり病態にも差しさわりが大きかったりします。その辺で、介護や医療が必要な避難者のための抜本的な対策というのは、こういう仮の避難所ではなくって大もとから考えることが必要だと思いますので、ぜひそこのところを、市だけではならんかもしれんけれども、対策を考えていくことが必要だというふうに思いますので、よろしくお願いします。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。

４３ページ、事業番号８５番、防犯対策推進事業について。

中田委員。

○中田委員　防犯灯の設置に関しては、本会議のほうでもたびたび、いろいろ話題に出てますけども、まず決算額、２８年、２９年、３０年が、事業概要のほうに額の変化が書いてあって、とりわけ２９年度までと、それから３０年度のところで額がぽんとはね上がってますよね。このことの要因とあわせて、昨今ＬＥＤ照明が進んできているわけですけど、そういった流れの中で、いわゆる自治会なんかが設置する際の自治会費用の設置費用の助成部分の額と、それから一方で、電灯料のほうの助成がありますよね、半額２分の１ですかね、これの変化といいますか傾向、そこら辺も含めてちょっと御報告いただきたいんですけど。

○門脇分科会長　田中防災安全課地域安全担当課長補佐。

○田中防災安全課地域安全担当課長補佐　まずは、ＬＥＤの防犯灯の、３０年度が非常に多くなったという要因についてですけれども、こちらにつきましては、それまで補助金額

としまして７，５００円という設定をしておりましたが、昨年度から３年間に限ってですが、県の補助対象となりましたために、補助額を１万円に増額をいたしました。これによりまして、平成２９年度までがおよそ３００基だったものが、３０年度、５２９基までふえたということになっております。

また、もう一つ御質問がありました電気料金の傾向ということですけれども、こちらのほうは年度によって申請いただく電灯数が違いますので、一概な比較はできないんですけれども、ＬＥＤ防犯灯が増加してきていることによりまして、電気料金に対する助成額自体は減少傾向にあるというふうに捉えております。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　最初の質問のところで、３カ年、県がということですので、一つのチャンスといいますか、ちょっと副市長さんがおって言いにくいですけど、県って大体３年ぐらいでぽおんと引いてしまうというのはよくあるパターンですから、応援してくれる間というのは本当に有効に使わないといけないと私は思いますし、それと、さっきの傾向ですけど、最近、街路灯用のいわゆるブランケットタイプの照明器具というのはもう蛍光灯の器具が売ってないというか、余り扱ってなくて、ほとんどＬＥＤ化していくわけですね。実際の電気料金で助成するわけですけど、２分の１補助の、例えば４０ワットタイプの明るさの分で今までやってきたところなんかの額に比べて、ＬＥＤ化したときの額って、電気料金ってぐんと低いんですよね、実際には。公衆街路灯の契約って１本１本の契約ですから。そうすると、今後ＬＥＤ化が進むと、米子市の助成額というのはどっちみち減少していく傾向にあると見ていいんじゃないかと思ってるんですけど。そうすると、本会議でもいろいろ、自治会が防犯灯をつけるっていうことの中で、要するに間、間につけていくような防犯灯という意味で、照明設置というのは自治会のほうでという話もあったけど、実際には料金に対する負担感というのもありますし、そういったことをこの間にやっぱり力強くすべき年度ではないかと、この３カ年というのは非常に有効に使うべきじゃないかと。ひいては、それが、自治会のほうの負担も、それから行政のほうの、市役所のほうの助成額の軽減につながっていくということになると、その余力のところでやっぱりもう少しうまくバランスをとりながら設置助成のほうを促進させたほうが有効な年だったんではないかと思うんですね。幸いにして額は３０年度は伸びてますからいいかなと思うんですけど、やっぱりここは、ぜひ、こういうタイミングを捉えて、自治会のほうとかいろんなところにも促進の呼びかけをするようなことがもっとあってもよかったんではないかなという気がするんですけど、いかがでしょうか。

○門脇分科会長　田中防災安全課地域安全担当課長補佐。

○田中防災安全課地域安全担当課長補佐　電灯切りかえ、新設等々、この防犯灯に係る補助金制度につきましては、毎年度、各自治会長さんのほうに御案内をさせていただいております。その中でも、金額の変更等には触れております。今、御指摘いただいたように、なお一層そこに力を入れるということですので、また機会もありましたら、何かと御案内もありますので、そちらのほうで盛り込んでいけたらというふうに思います。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　ぜひそういった取り組みを、この経験を踏まえて進めていただければと思うんです。というのが、例えば電灯料金の２分の１助成についても、これは実績払いですか

ら、基本的に申請主義ですよね。やっぱりそういったことになると、自治会のほうも積極的にという意識がなかなか働きにくいところがあるので、この際ＬＥＤ化を頑張ったほうが行く行くはというようなことも、中長期で考えたらみたいなこともするチャンスだと思うんです。このことは進めていただいてほしいないと。そういう面では、今年度もっとやったほうがよかったんじゃないかなというところは指摘させていただきます。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。

１６５ページ、事業番号３２９番、消防団装備資機材整備事業について。

中田委員。

○中田委員　これは、配備していただいていることはわかってるんですけども、要はどんなものをどれぐらい配備するかっていうところで、その配備計画に基づいて、これが、実際に各分団にどのくらい配備する機材が来るかっていうところが、今の現状、いかがなものかなと思うんです。その辺についての把握はどうなっていますでしょうか。

○門脇分科会長　田中地域安全担当課長補佐。

○田中防災安全課地域安全担当課長補佐　消防団員に対する装備資機材の配備ということでございます。前提といたしまして、各消防団員の方には、まず、個人に必要となります制服、制帽、活動服、ベルト、防火衣、こういったものは非常備消防費によりまして貸与を行っております。今、御質問いただいております消防団装備資機材整備事業、こちらにつきましては、これまでにシールドつきヘルメット、かっぱ、手袋、防火安全靴等の配備を行っているというところです。昨年度と今年度は団員の皆さん全員分ということで、２カ年かけて配備を進めているというところです。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　今回は全員配備ということで２カ年でということをしていただいて、これは非常に助かっておりましてね。といいますのが、今まで例えばヘルメットがこの間、何種類も変わってきたわけですよね、長靴もそうです。そうすると、各分団に渡ってくるその装備の数が３つとかということになると、例えば分団長から頭とっていくと、分団長から３人目ぐらいまで来たときに、次のやつが出てきて、次のやつが配備されて、いつまでたっても下のほうの団員の、実際作業するところに新しいのが全く来ないという現象があったわけです。

ですから､やっぱり消防団で出ていく人って常備とは立場が違いますんで､そうすると、特にヘルメット、安全靴とかそういったものというのは、実際の火災現場とか災害現場とかでは本当に命を守る、二次災害を防止する非常に重要なものなので、配備の仕方とか、あるいは予算措置の仕方ってやっぱりしっかり考えるべきではないかって、私は３０年度のところまでは思ってたわけですけれども、先ほどお伺いしたので、今後についてもやっぱりそういう、どうなんですかね、今回はそうやって２カ年で進めるという話ですけど、今後の装備についてもそういう考えでいらっしゃるんですか。

○門脇分科会長　田中地域安全担当課長補佐。

○田中防災安全課地域安全担当課長補佐　次年度以降の装備品につきましては、現在検討中ではありますが、資機材の配備につきましては、ちょうど先週終わったところですけれども、資機材点検というのを行っております。消防団に貸与を配備しておる物品がそろっておるかと、その確認の際に各分団の御意見を頂戴しておりますので、そういった声も踏

まえて、今後、何を何カ年ということを計画することにしています。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　ぜひ、そこら辺をお願いします。ちなみに、私もヘルメットがいつまでたっても更新がかからない。私だけ紺の生地のままのやつが、２５年前にもらったやつをいまだに、シールドも何もついてないというやつを、順番が回ってこなかったものですから。そういったことは、多分、私だけじゃなくてほかの団員さんにもあると思いますので、命を守るようなものについてはぜひそういう配備をお願いしておきたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。

１６６ページ、事業番号３３１番、消防団車庫整備事業について。

中田委員。

○中田委員　ここの部分ですけど、お伺いしたのは、決算額の変化というのは、いろいろ整備した関係で違ってきていると思うんですけども、実際の整備計画っていうのはきちっと年次計画的に組まれていて、例えば学校施設とかほかの施設だと、耐用年数とかいろんなことを含めて整備計画があります。そういった整備計画との整合というのはどうなんでしょうか。

○門脇分科会長　田中地域安全担当課長補佐。

○田中防災安全課地域安全担当課長補佐　消防車庫の整備計画ということですけれども、他の公共施設と同様となるかもしれませんが、建築年数ですとか経年劣化、耐震性等、建物の状況を勘案しながら年次的に進めるということとしております。今年度は加茂分団車庫の整備を現在進めておるというところです。次年度以降も、そうした考え方に基づいて、引き続き整備を進めたいというふうに考えております。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　わかりました。それで、そこら辺のどういう配慮が細かくされているかというところなんですけども、例えば消防車両の中でも小型ポンプ積載を、いろいろ今後どう変化するかわからないんですけど、車庫が小さ過ぎて、新タイプの消防車が入らないっていうような問題があるんですね。そうすると、車庫のほうは、例えば経年だとか老朽化の度合いによって配備計画をしていくということがあるんですけど、一方では、消防車両のほうの経年とか、劣化とか、更新とかっていうものの２つの数字を整合をとって追っかけていかないと入らないということが既に起き始めていると私は伺っているので、これからどんどん消防力の強化も含めていくと、従来の、例えば先ほど言いました小型ポンプの積載用の車両なんかも、今までの車両と形態が変わってきたりする可能性って僕はあるんではないかと思ってまして、そういったものを踏まえた各分団の配備計画っていうのをきちっととっておられるのかどうなのかということを確認しておきたいんですけど。

○門脇分科会長　田中地域安全担当課長補佐。

○田中防災安全課地域安全担当課長補佐　まず、消防車両の整備計画につきましてですが、こちらのほうも消防車庫の整備と同様の考え方をしております。導入時期、経過年数、走行距離等、車両の状況を勘案しながらということで計画を想定はしておるんですけれども、これまでのところで、消防車庫、消防車両の整備の進捗ぐあいが、スピードにずれが生じておるというところもありまして、直接的にこの２つの計画においては関連性はない状態となっております。今、御指摘もございましたので、その辺も各計画について改めて見直

してみたいと思います。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　そしたら、ぜひ、そこら辺の整合がとれてないところ、そこについては整備していただくよう、これは指摘とさせていただきます。よろしくお願いします。以上です。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。

７ページ、事業番号１３番、行政改革推進事業について。

岡田委員。

○岡田委員　これ、まず、こちらの事務報告の３８ページのところにですね……。

○門脇分科会長　ちょっと待ってください、事務報告の３８ページをお開きください。

○岡田委員　３８ページのところに、行財政改革大綱の進行管理というようなことで書いてあるんですけれども、これはまた今期定例会で報告もあるということはちょっと聞いたんですけども、平成３０年度として大きく取り組まれたこと、成果の上がったことというのは、具体的には何があるんでしょうか。

○門脇分科会長　塚田調査課長。

○塚田調査課長　平成３０年度の進捗状況ということでございまして、主なものということで挙げさせていただきます。主なものといたしまして、事業別に申し上げます。一点目が、母子生活支援施設コスモスの完全民営化を３０年度中に実施をいたしました。単年度の財政効果額は約１，０００万円ということでございます。

それともう一点が、本市は、給食調理配送業務を行う他団体の学校、これは具体的には組合立の箕蚊屋中学校、県立米子養護学校、県立皆生養護学校海浜分校でございますが、これに係る給食委託金に、学校給食共同調理場の整備事業に係る起債償還額の応分負担を上乗せしていただくことを折衝して認めていただきまして、平成３０年度の実績といたしましては約８２０万の収入を得ております。

それと、もう一つが、これはよく皆さん御承知だと思いますが、ふるさと納税の仕組みを利用した資金調達を行うガバメントクラウドファンディングを初めて導入をいたしまして、目標額を超える１５０万円余りを集め、がいな祭の花火大会の財源に充てたものでございます。

このほか財源効果が大きかったものといたしましては、平成２８年度から効果が引き続きということになりますが、米子市クリーンセンターの業務見直しと売電による効果額ということで、約１億１，５００万円というのが３０年度の大きなもの。それと、滞納整理についても引き続き効果を上げておりまして、効果額に換算すると約２億４，０００万でございました。

それと、全体のことも少し申し上げておきます。平成３０年度、単年度の財政効果の目標というのは４億円の設定をしておりましたが、この３０年度につきましては約５．８億円という結果になっております。以上でございます。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　効果のことはわかりました。十分効果が上がってることだということで話を承りましたけれども、所管がちょっと違うのかも知れませんけど、例えば駅前イオンがあると思うんですけれども、これ、以前から議会のほうでも話があったんですけど、１階のところは相当賃料を安い金額でお貸しになってるということで、賃料改定についての交渉

とかっていうのはこの行革の中でやったりはしているものなのですか。それとも、これはまた経済部のほうで独自でやっておられることなんでしょうか、いかがでしょうか。

○門脇分科会長　伊澤副市長。

○伊澤副市長　駅前のショッピングセンターの関係でありますので、私のほうから答えさせていただきます。これは行革マターでもありますけども、個別の懸案事項でありますので、これは市の開発公社とそれから経済部のほうで、御案内のとおりであります、２８年度から今のスキームに変えたといったときのいきさつも踏まえながら、家賃の改定交渉を私が責任者になってやっております。また動きがあれば御報告したいと思いますが、非常に微妙な問題もございまして、具体的な内容はちょっとこの場では控えたいと思いますが、私自身も数度にわたってイオン本社を訪問し、こういった家賃でお願いしたいと具体の数字をお願いしているところでありますが、向こうも当然経営の問題もございますので、なかなかそこのところは今の段階では見合っていないというのが今の状況でありますが、今の状態を続けることは非常によくないというふうに思っておりますので、その点も具体的に御指摘申し上げて、イオン側の御判断を今強く求めている、こういう状況でございます。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　ぜひとも、これから行政としての拠出額そのものは福祉を中心にふえていく一方なんだろうと思いますので、逆に今、歳出カット、いわゆる節約ができるようなら節約をしていきますし、収入がふえる部分はふやしていくということが大前提だろうと思いますので、なかなか、そのあたりでちょっと見えづらいところもありますので、ぜひとももう少し、やっているんだということを公表していただいて。

３８ページ、先ほどのところに民間事業者等々の連携協力の推進というのがありまして、日本郵便との包括的連携協議に関することということが載ってるんですけれども、これ、市政全般における公民連携等云々かんぬんということが書いてあるんですけども、日本郵便株式会社以外との提携というのは特にはなかったということでよろしいんですか。

○門脇分科会長　塚田調査課長。

○塚田調査課長　日本郵便以外の提携先というのは今のところございませんが、ことしに入って、先般ですけども、御案内を申し上げたとおり、民間事業者等との連携のための窓口を設置いたしましたので、これからどんどんそういうような事案がふえてくることを期待しているところでございます。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　こちらに記載してあるとおり、地域経済活性化の観点からも、地元の民間事業者との新たな事業機会の創出や投資の喚起につながることを優先的に検討することなどを盛り込んだ基本方針を定めて云々かんぬんと書いてあるんですけども、ぜひともそういった民間活力も活用しながら行財政改革を進めていただくように、要望と指摘としておきたいというふうに思います。

○門脇分科会長　それでは、次に参ります。

１２ページ、事業番号２３番、インフラ長寿命化基本計画策定事業について。

岡田委員。

○岡田委員　平成３０年度における、まずこれは進捗状況、平成３０年度につくられた個別施設計画というのは具体的に何がありましたか。以前からあったものと、平成３０年度

につくられたものは何かありましたか。

○門脇分科会長　塚田調査課長。

○塚田調査課長　済みません、具体的に３０年度中というような捉え方ではございませんけども、ちょっと全容を申し上げておきたいと思います。まず、インフラ施設でございますが、道路舗装、市道でございます。これはもう個別施設計画をつくっております。それと橋梁、これも済みでございます。それと公共下水道施設管渠処理場、これも済みでございます。上下水道施設についても、これも済み。それと漁港施設等についても、これも済みです。それと、公園施設についても済み。インフラ施設において、今、未策定のものについては、農業集落排水施設について、それと農道、農道橋、これについてがまだ未策定。それと、最後に、林道、林道橋についてで、このインフラについては３つが未策定という状況になっております。未策定のものには、国の要請に従って令和２年度中に策定をするというようなお話です。

それと、もう一つ大きな分野としては、公共建築物がございます。大別をしますと、既に策定済みのものとしましては、市営住宅、これが領域としては済みでございます。それと、単体でございますがクリーンセンター、これについても策定済みでございます。未策定のものにつきましては、これは大きなものとしては学校施設がございます。これは令和元年度中、今年度中に、文科省の指示に沿って策定を予定をしていると。それと、残りの公共建築物、これもかなり数はございますが、これについてですが、急いでちょっと政策方針や今後のあり方を検討するものにつきましては、これは幾つかあるんですが、市役所の本庁舎、例えば文化ホール、水鳥公園、ふれあいの里などについては今年度中に策定を済まそうというふうに考えております。あとのものは、国の要請に沿って、令和２年度中に策定をするというような予定でございます。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　そうすると、公園関係はある程度、個別施設計画はできているということでよろしかったですよね。これは、この間も私もちょっと言わせてもらって、アンケート等をとっていただいてというようなこともありましたけれども、先ほど市営住宅のほうも個別の長寿命化計画をおつくりになって、ある程度削減をするということだったんだろうと思うんですけれど、ある程度の年数で見直したりということもあるんだろうと思うんですけど、平成３０年度中にこれまで掲げておられた個別施設計画を変えたというようなところっていうのはありましたですか。特に大きな変更点というのはなかったですか。

○門脇分科会長　塚田調査課長。

○塚田調査課長　３０年度中に個別施設計画の一部変更を行ったというのは、今の時点でははっきりと把握できませんので、改めて今度報告させていただきたいと思います。

○門脇分科会長　伊澤副市長。

○伊澤副市長　これは御案内のとおりでありますが、市営住宅については、２４年でしたか、２５年でしたか、つくっておりましたが、現状にそぐわなくなっていると。これは議会のほうでも御議論いただきました。現在これは改定に向けて検討しています、改定作業を進めております。このように、当然１回つくったらそれでおしまいということではなくて、ローリングしていきますので、毎年というわけにはなりませんけど、つくって、しばらくたって、これが情勢に適合しているのかどうかといったことを点検しながら、必要な

ものは改定していくと、この作業が起きると、このように考えております。

○門脇分科会長　塚田調査課長。

○塚田調査課長　先ほどの３０年度中の改定についてでございますが、橋梁の個別施設計画につきまして、平成２４年度に策定したものを平成３０年度中に改定をしております。これは、公共施設等総合管理計画との整合を図ったというような改定というふうになっております。

○門脇分科会長　岡田委員。

○岡田委員　公共施設等の総合管理計画の中では、今回の定例会の一般質問の中でもありましたけども、４０年間である程度削減していくということで、２０％ですか、個別の施設計画に関しても基本的には縮小していくという方向性なんだろうと思うんですけれども、先ほど副市長も言われましたように、そうはいっても、いろんなニーズが出てきたり、当初必要がないと言われていたものでも､やはり必要なんだということもあると思いますし、そのあたりは市民の皆さんのニーズに沿った施策になるように対応していただくように、３０年度のことも踏まえた上で、ぜひとも進めていただくよう要望と指摘としたいと思います。

○門脇分科会長　それでは、同じくインフラ長寿命化基本計画策定事業について。

今城委員。

○今城委員　先ほど、それぞれの取り組み、インフラ施設、それから公共建築物で個別施設計画の策定ということで、大体スケジュールとかというのは伺ったところなんですけれども、さっきおっしゃってくださった、ローリングしますということですので、それぞれに状況とか緊急性だとかいろんなことを考えて、それぞれの施設で策定していかなければならないっていうことは絶対あるのはあると思いますが、見えるようにしていただくっていうのがやっぱり一番いいのかなと。個別施設計画が、ある程度出していけるものは見えるような形にしていくのがいいのではないかなと私は常々思っていまして、それは前期の公共施設等の考え方のところでも、やっぱりそういうのは何度か話があったと思っているところです。

ですので、できる限り、でき上がったものの目途はどうなっているのでしょうかっていうことではあるんですけど、見える化できるところっていうのはしっかり出していただきたいなというふうに思っています。昨今の公共施設の統廃合の件で、いろんな臆測を呼んだりとか、または誤解があったりとかっていうような、また不安もあおったりとかっていうような発言とかも、議会だけではなくってマスコミ等も含めてやっぱりあるなというのはちょっと感じるところなんですけど、そういうところの基本になるのは、この個別施設計画等をきちっと出して、こういう状況ですので、例えば庁舎問題もこういうふうにしていかないといけないんですっていうことが見えていると､ある程度説明もしやすいですし、理解もしていただきやすいっていうのは、これは共通認識ではないかなというふうに思いますので、どの時点でっていうのを、今年度末にとかっていうことができるものとできないものとか相当あると思いますが、できる限り早い時点に、できるだけ出しやすいもの、出せるものをしっかりと出していただいた上でやっぱり議論の俎上にのせていただきたいというふうに思っていますので、これは指摘をしておきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○門脇分科会長　それでは、ほかにございませんでしょうか。

〔「なし」と声あり〕

○門脇分科会長　以上で総務部所管部分の審査を終了いたします。

予算決算委員会総務政策分科会を暫時休憩いたします。

午後２時２９分　休憩

午後２時３０分　再開

○門脇分科会長　それでは、予算決算委員会総務政策分科会を再開いたします。

これまでの審査をもとに、指摘事項とすべき項目について、委員の皆様から御意見をお願いいたします。

事業項目では、今指摘された方が、１３項目ほどございました。

（「ちょっとそのことについて、いいですか。」と岩﨑委員）

○門脇分科会長　どうぞ。

岩﨑委員。

○岩﨑委員　それぞれ、私もこれ載せてほしいという意見もあるんだとは思いますが、いや、その意見はだめだわとか、入れんわとかいうことがあってはならんと思うので、できれば、進め方としての提案ですが、委員長のほうからまとめられたと思うんです、委員長の指摘みたいな項目をちょっと捉えていただいての協議を進められたと思いまして。

○門脇分科会長　わかりました。指摘事項の番号等、一応控えておりますけども、委員の皆さんでこれは指摘事項にぜひ入れていただきたいという項目がございましたら、なるべく尊重して､皆さんで調整を図りながら何とか指摘項目に上げていきたいと思いますので、その辺は御了承いただきたいと思います。

一つずつ言いますと、順番に言っていってもいいんですが、委員の中でこの項目はぜひ指摘事項として入れていただきたいという項目がございましたら、岡田委員のほうから順番に先に聞いていきますので、それでは、ちょっと言ってやっていただけますか。

○岡田委員　まず、この生活路線……。

○門脇分科会長　番号を言ってください。

○岡田委員　４７番ですね。

○門脇分科会長　１ページ目の一番下の４７番ですね。

○岡田委員　これは多くの方がもともと議題として上げておられますんで、文章をどうするのかというのはあるんでしょうけども、指摘事項に上げたらいいんではないかなというふうに思っております。

あとは、あくまでも個人的に、ちょっと中身がいまいちなかったなという気はしてるんですけど、事務報告の６９番の鳥取大学医学部との連携の強化、１枚目のところで。

○門脇分科会長　事務報告ですね。

○岡田委員　事務報告のところですね。これも指摘という形を。皆さんの御意見にはよります、いや、それは指摘に当たらんということだったらそれはそれでいいですけど、というところぐらいですかね。とりあえずその２項目。

○門脇分科会長　尾沢委員のほうからは。

○尾沢委員　特にないです。

○門脇分科会長　岩﨑委員。

○岩﨑委員　まず、２ページ目の一番下、２４番、女性専門職資格取得助成事業、これは結構議論になったと思うんですよ。いろいろ各委員から指摘があったと思います。まずそれが一つですね。

それから、今度、総務部においてということで、これは私も個人的にはちょっと指摘をしたつもりなんですけど、６５番のシティプロモーション、それと９番の自主防ですか、という感じで、３項目ちょっと上げさせてもらいました。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　私としては、基本的に、先ほどちょっと言葉として出ましたけど、複数の方、多くの方が質問されている項目、生活路線運行対策事業、それから女性の専門資格のところですね。

○門脇分科会長　２４番ですね。

○中田委員　２４番。それから、９番の自主防災。これについては、内容がちょっとずつ違うところもあるので、表現だとか、どういう指摘に集約するかのところは調整が要ると思いますけど、ここはされたほうがいいんじゃないかなというふうに思いました。大体そんなところですね。

○門脇分科会長　次に、今城委員。

○今城委員　事業番号４７番の生活路線運行対策事業と、女性の専門職資格取得事業と、自主防災組織育成事業。それと、皆さんの合議の中でということで、一番最後、２３番のインフラの長寿命化の事業なんですけども、個別施設計画の件については、これはちょっときちんと出して初めてさまざまな庁舎問題とかとするべきだったのが、そこが実際問題は、いろんな国の施策の変更等々があったのでできていないということは、もうこれは仕方がないことではあるんですけども、ここら辺のところも決算としてはやっぱりきちっとするほうがいいのかなと思いますが、あとは皆さんの御意見に沿います。

○門脇分科会長　石橋委員。

○石橋委員　私としては、５７番、中心市街地の活性化推進事業、これは私だけですけど、これと、それから２４番、女性の専門資格、ここはたくさん意見が出ていますけど、これと、あと、先に飛んじゃったけど、４７番に返って、私は発言してませんけども、生活路線のここの問題、ここも上げるべきだと思います。

○門脇分科会長　次、西川委員。

○西川委員　なし。

○門脇分科会長　国頭委員。

○国頭委員　私も、４７の生活路線と、２４の女性の専門職と、９番の自主防災、ここを出していただけたらと思います。

○門脇分科会長　それでは、委員の皆さんに一応今、御意見聞かせていただきました。

まず、皆さんにお諮りいたしますけど、中田委員がおっしゃいましたように、一つの事業で多数の方が発言された項目、質問された項目の中で、まず１ページ目の４７番、生活路線運行対策事業、これについては、皆さん、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と声あり〕

○門脇分科会長　続きまして、はぐっていただきまして、２４番の女性の専門職資格取得助成事業について、これもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と声あり〕

○門脇分科会長　はぐっていただきまして、９番、自主防災組織育成事業。これについて、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と声あり〕

○門脇分科会長　じゃあ、一応今、この３つの部分は指摘事項として入れさせていただきます。

１ページ目に返っていただきまして、まず真ん中どころですけど、事業報告の６９番、鳥取大学医学部との連携強化について。これは入れたほうがいいですか。

岡田委員。

○岡田委員　入れておくと、鳥取大学に対する、何ていうか、アピールにもなるかなと思って、議会も応援してるんだよというところを。

○中田委員　いいですか。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　私、このやりとり聞いていて、指摘事項というのが、鳥取大学の連携そのものが不足しているような指摘事項というような話では、私、なかったと思っていて、説明はしてますよと。ここに出たのは、事務報告の記載の詳細さが足りないという話が出たので、これは全体を通じての話だなと。事務報告の今後のありようの話ですね、つくり方の問題ではなかったかというふうに私は受けとめたんです。

○門脇分科会長　ほかの委員の皆さん、いかがですか。

岡田委員、いいですか。

○岡田委員　いいですよ。

○門脇分科会長　いいですか。

○岡田委員　いやいや、それはみんなの総意でないですから、いいです。

○門脇分科会長　じゃあ、これはちょっと取り下げてということでお願いいたします。

○岡田委員　はい。

○門脇分科会長　次に、５７番の中心市街地等活性化推進事業について、これは石橋委員からの発言でございましたけども、これは……。

○中田委員　指摘になってないじゃないか。

○岩﨑委員　何か、委員長、指摘内容を書いておられないですか。

○門脇分科会長　最後、指摘しときますって言われましたので、指摘ありって書いてるんですよ。それだけで。

○石橋委員　何か決算に関してということでもないんですけど、大事なことだと、ちょっと渋い問題ですけど。

○中田委員　いいですか、委員長。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　私は、指摘というか、意見として言っておられました内容を聞いてたんですけど、私としては同意できない内容も含まれていました。例えば、商店街の活性化という言葉が再三出てきたんですけど、この中心市街地活性化計画というのは商店街の再整備の話ではありません、計画そのものが。この中心市街地の活性化策の話なので、私は、今まで議論をして、中心市街地活性化基本計画をつくって国の認定を受けてきた経過をずっと

見てきましたけど、その論点にすべきものとは、商店街の再活性みたいな話は私はずれているなと思って聞いていましたので、あの内容には同意できない。

○門脇分科会長　石橋委員、どうですか。

○石橋委員　いいですよ。

○門脇分科会長　いいですか。わかりました。

　では、これもなしということでよろしいですか。

〔「異議なし」と声あり〕

○門脇分科会長　次に、２つはぐっていただきまして、３ページの事業番号６５番、シティプロモーション推進事業で、これは岩﨑委員がおっしゃられた。

　岩﨑委員。

○岩﨑委員　これまでの議論を聞いてまして、そうですよねと、あるものは結構偏ってると思うんです。私も結構思いが強いなと、そんなふうに思っておりますので。ただ、事業が始まったばっかりなんでね、これも。全く、まだちょっと事業の推移をこれからも見てみないといかんということで……。

○門脇分科会長　いろいろ計画されてましたからね。

○岩﨑委員　取り下げます。

○門脇分科会長　じゃあ、これも取りやめということでいいですか。

〔「異議なし」と声あり〕

○門脇分科会長　じゃあ、続きまして、一番最後、２３番、インフラ長寿命化基本計画策定事業について、これは岡田委員と今城委員が指摘事項として上げておられましたけど、ほかの委員の皆さんはどうですか。

○国頭委員　今までできてる部分は、あんまり全然オープンにされてないので、どういったふうなものが書かれているのか。普通、見れて至極当然だなと思ってるんですけど、まるっきり最後までできないと開始されないのかどうかというのは不思議だなと思うんで。だから、そういう指摘は普通にありだなと思ってますけど、多分報告はなされていると思うんですけど。

○門脇分科会長　中田委員。

○中田委員　各委員会なんかで資料も事前配付されて、その計画ができましたということ自体は今までされてきていますけど、きょうは塚田課長が、これは完了、これは完了って言って、達成しているやつ、問題は周知度が低いということだと思うんですね。報告は、議会のほうには、各委員会だったり資料配付されているものなんですけど、周知度の問題だと思っていまして、そこの周知の努力不足というところの観点でだったら、またきょうの話で。

○門脇分科会長　きちんとまとめてやっていただいたほうがいいんじゃないですか、指摘として。これからどんどん個別も出てきますけども、今までのところで委員会ごとに、これは調査課がきちんと全体を把握しているので、ほかの委員会ではその担当委員会のことしか発表、報告はしてないので。いいですか、これ入れても。

〔「異議なし」と声あり〕

○門脇分科会長　それでは、確認させていただきます。１ページ目から、事業番号４７番、生活路線運行対策事業。はぐっていただきまして、事業番号２４番、女性の専門職資格取

得助成事業。はぐっていただきまして、事業番号９番の自主防災組織育成事業。はぐっていただきまして、事業番号２３番、インフラ長寿命化基本計画策定事業について、以上の４点を指摘項目として上げさせていただきます。異議ございませんか。

〔「異議なし」と声あり〕

○門脇分科会長　それでは、次に、指摘事項について、文案の作成者を決めさせていただきます。今まで基本的には発言者の方に取りまとめをしていただいておりますけど、まず順番に、４７番の生活路線運行対策事業。

○岩﨑委員　僕はしゃべってないです。全くしゃべってないです。スタートは岡田さんでしたね。

○岡田委員　これ、俺がしゃべったやつですね。

○岩﨑委員　中田さんが指摘されたこと、ちゃんと僕は記載してますよ。

○今城委員　私も記載しています。

○門脇分科会長　これ、指摘されたのは中田委員と国頭委員ですね。

○岡田委員　じゃあ、ちょっとそちらで。

○中田委員　なら、この生活路線運行対策事業は。またちょっと内容をフォローしてください、事務局のほうで。

○門脇分科会長　２人で。じゃあ、中田委員と、それから国頭委員とでお願いいたします。

次に、女性の専門職資格取得助成事業についてでありますが、これは岩﨑委員と中田委員が指摘として。

○岩﨑委員　これも中田さんが最後に、ちょっといいかって言って手を挙げられたんですよ。それで、中田さんの指摘を僕はちゃんと書いている。

○今城委員　それはすごくいいと思いました、私も。中田、指摘と書いてますから。

○岩﨑委員　それか、もしくは今城さんが代表で書いてもらって。そこにちゃんと書いてますからいいんじゃないですか、中田さんの指摘なんかも入れてもらってですね。

○門脇分科会長　これはちょっと、今城委員の口から指摘……。

○今城委員　私は指摘って言ってませんでしたよ。

○門脇分科会長　言ってなかったですね。

○今城委員　要望とはしましたが、指摘にはしてないですよ。

○門脇分科会長　これは岩﨑委員と石橋委員と２人でちょっと。

○岩﨑委員　２人でつくるんですか。

○門脇分科会長　はい。あとは中田委員に参考意見はお聞きください。

○岩﨑委員　委員長がおっしゃるなら。石橋委員、頑張りましょうか。

○石橋委員　はい、よろしくお願いします。

○門脇分科会長　よろしくお願いします。

それでは、９番、自主防災組織。これは、強く言っておられたのは岩﨑委員と中田委員ですね。

○岩﨑委員　ちょっと待ってよ。女性のほうは石橋さんにもうお願いして、私、これやりましょうか。

○門脇分科会長　これも取りまとめる。いいですか。

○岩﨑委員　いいですか。じゃあ、取りまとめてみます。また皆さんの御意見を聞きます。

○門脇分科会長　それから、最後、インフラ長寿命化基本計画策定事業、これ、今城委員にお願いできますか。よろしいでしょうか。

○今城委員　はい、わかりました。

また、もしわからないようなところがあったら……。

（「ちょっと議事録ができたら。」と岩﨑委員）

○門脇委員長　いや、ちょっと待って。時間がありませんので、それは。

○中田委員　いつまでに。

○門脇分科会長　言いますので。ですから、言われた委員の方に聞き取りというか、相談されてお願いしたいと思います。

それでは、文案の作成される委員の方には、指摘事項案委員提出表というのがございますので、これを９月１９日、あさってです、午後５時までに、可能な限りメールで、事務局、佐藤主任宛てでよろしいですか。

○佐藤議会事務局議事調査担当主任　はい。

○門脇分科会長　じゃあ、佐藤主任宛てに提出していただきますようにお願いいたします。

それで、最初に言いましたように、文案については分科会の中で述べられたことしか記述できませんので、自分で肉づけをしないようにお願いします。

それで、提出いただきました文案につきましては、２４日の分科会がございますので、そのときに文言調整等の整理を行いますので、あらかじめ御了承ください。

では、その他、皆さんほうから何かございますか。

〔「なし」と声あり〕

○門脇分科会長　それでは、以上で予算決算委員会総務政策分科会を閉会いたします。

午後２時５０分　閉会

米子市議会委員会条例第２９条第１項の規定により署名する。

予算決算委員会総務政策分科会長　　門　脇　一　男